

物價騰貴論

緒言

凡ソ物ノ價チ有スルハ則チ生活資用ノ多寡大小ニ因リテ
 ルハナシ然レ而シテ或ハ通貨或ハ時好或ハ奸商或ハ製造
 ノ費途或ハ運搬ノ難易或ハ供給需用ノ動稱等ク作用ニ由
 テ以テ或ハ非常ニ貴ク或ハ非常ニ廉ニ變動昇降其定點チ
 シ遠ニ固有ノ真價チ失シ要用ノ適度ニ應セザルニ至ル其
 影響ノ波及スル所口實ニ鮮少ナラザルチ、就中其非常ニ
 ア止マザルルハ則チ人民ハ生活ニ艱、政府ハ財政
 家給セズ國族ハス人々相ヒ食、老幼痼疾ハ溝壑ニ
 傍ニ餓ヘ而シテ之ヲ救済スルモノ無キク慘狀ヲ現
 ニ至ル於是乎内ハ貧民ノ擾亂ヲ生シ外ハ敵國ノ邊

寇ヲ試ルノ事アルハ或ハ獨立ノ体面ヲ損スルノ憂ナキ
 コアラヌ嗚呼亦危哉豈之ヲ輕々看過セシト欲スルモ得
 ヤ是故ニ當路ノ縉士有識ノ學者ハ荷キモ物價ノ騰貴スル
 ナ見ルハ則チ朝野ニ於テ其來由根據ヲ討論シ以テ其防
 遏方法ヲ研究シ而シテ未ク其甚シキニ至ラサルノ時ニ於
 テ其微チ防カスンハアラサルナリ業已ニ決河破竹ノ勢ニ
 及ヒテ而シテ后チ種々ノ方策ヲ以テ之ヲ防遏ヲ試ムルモ
 却テ之カ聲援ヲ爲スニ足ルノミ豈復々之ヲ思ハサル可ク
 ヲヤ今ヤ本邦物價ノ騰貴モ亦瑣少ナリトヒス然リ而シテ
 日ニ月ニ騰貴スルノ勢アルヲ見テ未ク其低落スルノ色ノ
 ルヲ聞サルナリ是レ即チ當路者學士ノ袖手傍觀スルノ時
 會ニ非ラサルナリ實地ニ就テ實況ヲ搜リ以テ其反對ニ出

テ其防遏ヲ計ルヘキコアラヌヤ茲ニ西曆自千八百六十四
 年至千八百七十四年獨澳ノ兩國ニ於テ物價非常ニ騰貴シ
 上下共ニ困難ニ際シ或ハ輓近ノ騰貴ハ貨幣ノ下落ニ由ル
 ト云ヒ而シテ其下落ハ貨幣ノ過量ニ在リト云ヒ或ハ何或ハ
 何諸説紛紜トシテ何レヲ是トシテ何レヲ非トセンカ殆ント其
 判定ニ苦シムノ状態ナキニ非ラス就中波謨兒氏ハ實地ニ
 就テ見察シ實例ヲ擧ケテ説明シ以テ世論ノ虛構ヲ駁シ而
 シテ自説ノ確實ヲ表シ一書ヲ著述セリ其論旨ノ大畧ニ曰
 ヲ輓近十年間ノ物價騰貴ハ尋常一般ノ原由ニ歸スルヲ得
 サルナリ即チ市場ノ組織ト法律ノ所爲トニ由テ以テ特
 勢力ヲ得タルノ獨賣權ト方今流行ノ所有權擅用トノ二大
 原由ヲ有セリ故ニ其之ヲ低落セシムルノ方法ニ至ラハ則

政府ノ大權ヲ以テ所有權ヲ限制シ獨賣權ヲ減殺スルニ
 在ルノ事ト願フニ國勢ナリ物同シカラズ雖同然レモ
 ニ於テハ二邦ニ二理ナシ今日本邦以騰貴ヲ討論スル時
 以テ參考ニ供セハ聊カ裨益スル所ハ無クニアラソ平
 天漢學不文ヲ願フス獨リニ譯述ノ事ニ從ヒ茲ニ稿ヲ脱シ
 梓ニ付テ讀者譯文ノ拙ナルヲ以テ真意ヲ害スルナク
 幸甚
 明治十四年四月
 譯者 謝 誠

物價騰貴論

目 錄

- 第一 現在ノ騰貴及ヒ其作用
- 第二 物價一般騰貴ノ原由
- 第三 價格ヲ變スル各物交互ノ作用
- 第四 眞正ニ非ラサル貨幣下落
- 第五 現在騰貴ノ原因タル貨錢ノ昇騰スルカ爲メニ
増加セシ製造費
- 第六 現在ノ供給ト増加セシ需用ノ對稱
- 第七 物價騰貴ノ眞正原基
- 第八 此原基ヲ防禦スルノ方法

第一 現在ノ騰貴及ヒ其作用
第二 騰貴ノ原因
第三 騰貴ノ影響
第四 騰貴ノ防止
第五 騰貴ノ救済
第六 騰貴ノ結果
第七 騰貴ノ歴史
第八 騰貴ノ地理
第九 騰貴ノ政治
第十 騰貴ノ経済

物價騰貴論

澳國 波理謨兒著

日本 松本五造譯

第一 現在ノ騰貴及ヒ其作用

物價騰貴ノ一般流行スル其原由ヲ論述スルニ當リ獨乙澳地利兩國ニ於ケル最近十年間自全七十四年ニ注目シ其現狀ヲ歴察シ來ルニ凡百ノ品物就中日用必需ノ食物衣類諸器具家賃等即チ之ヲ約言スレハ生活ニ不可缺諸品物ノ騰貴ヲ以テ其目的トナスナリ驕奢榮耀ニ屬スル品物ノ如キハ皆ニ騰貴セサル而已ナラス富者モ尙ホ之レヲ用ルコト大ニ減少セシカ故ニ却テ其價格ヲ低落スルニ至レリ亦以テ日用品ノ騰貴ヲ徵スルニ足矣且又物價ノ騰貴ニ拘ハラ

ス人口愈繁殖シ需用愈増加シ以テ僅々十年間ニ於テ生計
 必需ノ品物ハ驕奢榮耀ノ器具ト相ヒ似ス益其勢力ヲ逞
 シ益其騰貴ヲ極メ可驚ノ景狀ヲ今日ニ現出シタルハ皆十
 人ノ見テ知ル所ナリ此時ニ當リ食物即チ卵、乳、菓物、醬、醬、ハ
 一倍、鳥獸肉、乳製品、麥粉、硬皮菓之類ハ半倍、野菜、飲料ハ二分
 五厘或ハ三分ノ騰貴ニシテ、他燈油類、木具、金器凡テ家
 政必需ノ日用諸品ハ咸單ニ價格ノ騰貴ニ止マラス加フル
 量、目ヲ減シ品等ヲ下ケ之ヲ以前ニ比較スレハ則チ著ル
 レキ差異ヲ生スヘシ又家賃ハ大市街ニ於テハ五分乃至七
 分、白蠟之普魯士蠟也、納之澳地利ノ如キ大都會ニ在テハ一倍ノ
 高値ニ至リ、飯、台、田舎ノ小市街ト雖モ亦其騰貴ノ定度ヲ知
 ラズ衣類所用ノ麻布並ニ柔革ハ平均五分、木綿、羊毛ハ其價

格ニ騰貴ハ實ニ鮮少ナルカ如キト雖モ是レ亦品質ノ頗
 廉惡ナルヲ以テ彼是相算スレハ則チ甚太シキ騰貴ヲ見ル
 可シ如此少數年間ニ於テ俄ニ物價ノ騰貴セシヤ非常ノ感
 動ヲ萬般ノ事業ニ惹起スルハ理ノ當サニ然ルベキ所ナリ
 彼ノ夥多ナル諸種ノ事業者ハ各物價ノ騰貴ヲ以テ其保
 ニ困難ナルヲ嗷々セリ當時ノ形勢ヲ以テ之ヲ考フルニ其
 物價騰貴ニ拮抗スルノ以テ益ヲ見ルヲ能ハス究竟貧乏ヲ降
 リテ窮迫ニ陥ルノニ而シテ此事業ニ縁リ其生計ヲ營ム力役
 者モ亦一般ニ高値ノ賃銀ヲ要スルカ故ニ其増給ヲ請求セ
 サルヲ得ス然モ事業者即チ使役者ハ輒ス力役者ノ請求
 ニ應スル能ハサル而已ナラス常ニ之ヲ拒絕セシムル是レ
 勉々又力役者ハ就役工カノ價ニ因ラス只管生計必需ノ額

ナ以テ追求スルニ由リ使役者ト力役者トノ間ニ於テ往々
 爭論ヲ生シ爲メニ事業ヲシテ益疲弊セシメ一般ノ製造ニ
 障礙シヤレガイヲ與フルコト大ナリ夫レ日用諸品ノ騰貴スルハ窮迫事
 業者ト貧困力役者トヲ増加ス可キ目下ノ明徴ナリ是故ニ
 製造家ハ偏ニ利益ヲ減縮セザランコト切望熱心シテ其製
 造方ニ於テ高値ノ賃役者ヲ省除セヨトテ思考シ終ニ器械
 ナ以テ人力ニ代ラルニ至ル蓋シ器械ノ流行スルヤ果シテ
 物價ノ騰貴セシム由ル乎夫レ然リ器械ヲ用井テ製造ヲ熾
 シヨスルハ爲メコ人智モ進歩スルノ利アリト雖モ奈何セ
 シ又他人一方ニ就テ之ヲ見レハ爲メニ貧者ヲ増加スルノ
 害アルチ是レ所謂一得起マテ一失生スルノ理歟然リ而シ
 テ製造費ノ賃錢ヲ以テ主トナシ器械ヲ以テ人力ニ代テ可

ナザルノ事業ニ在テハ職工ノ賃錢昇昂スルルル則チ製造
 物ノ價格モ亦騰貴スルハ常ニ見ル所ナリ之ヲ例スルニ彼
 ノ賦税カウツノ如キ之ヲ掘採クツサイスルニ當リ多クハ人力ヲ以テ稀
 レニ器械ヲ用ルノ事業ニ於テ歴々之ヲ徴ス可シ殊ニ又食
 物ノ騰貴シテ食料税ノ重課セラレ、トハ諸種ノ擬物ギモノヲ製
 造シ以テ酒類センイ密賣ミツバイスルカ故ニ不健康ノ品物ヲ増加ス乃チ
 葡萄酒、麥酒、燒酒等ノ製造家カ日々其証跡ヲ現ハセリ
 物價騰貴ノ一般流行スルヤ啻ニ人民ノ困苦スル而已ニ非
 アス又政府ノ難難ナリ人民ニ於テハ生計ノ窮迫ナルカ上
 ニ諸税ノ重課ニ堪ユル能ハス政府ニ在テハ諸官省ノ經費
 ハ從來ノ定額ヲ以テ支フル能ハス故ニ上下交利ヲ征ルト
 雖モ尙ホ其所ヲ得サルナリ於是乎政府ハ非常ノ節儉セツケンヲ行

非常ノ減制ヲ施シ以テ冗兵ヲ淘汰シ、シヤウヘイ 費官ヲ^{コソク}去シ而シテ、
 諸官省ノ定額ニ節減ヲ加ヘ以テ財政ヲ整理シ人民ノ困
 難ヲ救済スルニ着眼注意スルハ則チ物價ノ低落スルヲ得
 テ上下共ニ安然ナル可シト雖、フクフ 果シテ如此活斷ヲ決行ス
 ルハ尙モ諸稅ヲ重課シ得ルノ間ハ尙ホ甚々難キモノト察
 セラル然リト雖、イヤシ 凡我政府ニ於テハ如何ニ國民カ諸稅ノ重
 課厚收ニ耐ユレハトテ竟ニ之ヲ塗炭ニ陷ラシムルカ如キ
 ハ決シテ之レ無キコト贅言ヲ俟スシテ明矣抑此時ニ當リテ
 諸稅ヲ重収スルハ實ニ其益ナキ而已ナラス然ラサルモ業
 已ニ各般ノ事業ニ於ケル困難ヲ益増長セシムルノ害
 アリトス諸稅重課ノ令隨ツテ出レハ物價騰貴ノ勢隨ツテ
 熾マナリ譬ヘハ諸稅重課ト物價騰貴トハ猶ホ車ノ兩輪ノ

如シ車ノ進ムヤ輪モ亦輒進セサルヲ得ス常ニ相離ルハ一
 能ハサルナリ吁嗟諸稅ノ重収ハ國家ノ幸福ニ於テハ^{カク}害モ
 其用ナキモノト謂フ可シ今ヤ物價ノ騰貴セシテ以テ貧者
 ハ愈貧ヲ加ヘ之ニ反シテ富者ハ愈富ヲ増シ世間ノ通貨ハ
 盡ク富者ノ手裡ニ歸シ以テ貧者ノ困苦ヲ重シスルノ姿ト
 ナレリ蓋シ貧富ノ隔絶スルヤ之ヲ歴史ニ徵スルモ常ニ國
 土開明ノ進路ヲ壅塞スルノ初歩ナラザルハ無キナリ
 物價騰貴ノ公私事業ニ於テ著ルシキ感動ヲ起シ國家ノ經
 濟ニ其影響ヲ生スルコト實ニ鮮少ナラザルナリ故ニ世人ハ
 一國開明ノ誘導ト稱ス可キ製造物ノ騰貴スル原由ヲ探知
 スルハ勉メテ之カ防禦ノ策ヲ施シ其勢力ヲ減殺スルヲ
 以テ最モ緊要ノ問題トナス可キヲ悟了セリ而シテ獨澳兩

國ニ於テハ政府及ヒ代議士ハ物價騰貴ノ跋扈シテ衆庶困
 難ニ喘息スト雖モ袖手傍觀シテ一策ヲ試ミス怡モ之ニ對
 シテ啞者盲人ノ如シ物價騰貴ニ施シタル手段ノ只僅カニ
 觀ル可キモノハ製造物ノ價格ヲ具昂スルヲ許可シタルト
 文武官吏ノ俸給及ヒ滿年令、官宅料ヲ増加スルノ規則ヲ設
 ケタルトノ二事アルノニ其他救治ヲ要スルノ事件ハ國內
 ニ充滿スト雖モ殆ント之ヲ知ラサルモノ、如シ國民尋常
 ノ不幸ハ普通ノ法律ヲ以テ之ヲ濟理シ又非常ノ困難ハ臨
 時ノ計策ヲ以テ之ヲ救治シ而シテ一般ニ福祉ヲ得テ生活
 ニ聊ンセレムルニ於テ注意スルハ政府第一ノ義務ナリ然
 ルニ當路者ノ意見ハ未タ是等萬事ニ及ハサル所ニ多キカ
 如シト謂フ可キナリ

物價騰貴ニ對スル立法行政ニ就キ甚ク拙劣ナル論說辨明
 種々紛々ト雖モ其最ナルモノハ物價ノ騰貴スルヤ否
 令自然ニ任放スルモ終ニ其平均ヲ得サルモノ無シ其自然
 ニ任シテ其救濟ニ苦マサルノ上策ニ若カスト主張スルノ
 說アリ今其一ニ例ヲ掲ゲヨニ日用品ノ價格騰貴ニハ
 力役者ノ賃錢モ亦増給ス諸般ノ品物ヲ高價ニ販賣スト雖
 用亦其製造家ハ資本ノ多額ヲ要スト云フノ類是ナリ然レ
 用此說ノ如キハ目下ノ窮迫者ニ於テハ殘酷ノ待遇ト謂ハ
 サルヲ得ス其平均ヲ得テ其生計ヲ保ツニ至ルハ是レ必ラ
 ス多少ノ時日ヲ經過ス可シ而シテ目下ノ窮迫者ハ之ヲ俟
 ツノ違アラス竟ニ路傍ニ飢餓スルノ幸ヒニシテ餓死
 免ガレ平均ノ期ニ會スル者ト雖モ其最善ノ結果ハ則チ只

ニ一物トシテ高價ナラサル無キノ平均ヲ得ル止ニ豈之ヲ
上策ト謂フヲ得ンヤ是故ニ日用品ノ騰貴ヲ見テ徒ニ賃錢
ノ昇昂ニ着眼スルハ其本然ニ非ラサルナリ况ンヤ平均說
ノ如キ抑又何等ノ見解ソヤ其正鵠ヲ失スルモ亦甚太シカ
ラスヤ吾人ノ知識セル彼ノ増加セサルヲ得スシテ増加セ
ル官吏ノ俸給、宿料、力役者ノ賃錢等ハ物價騰貴ノ度ニ應シ
果シテ其平均ヲ失スルナキカ其増加ノ目的ハ單ニ食物ニ
就テ之ヲ算シ其他ニ及ハス故ニ前ハ則チ生計ニ餘裕アル
モ今ハ則チ之ナキ而已ナラス其増加ヲ以テ只僅カニ生活
ヲ遂ルノニ其名ハ平均ヲ得ルトスルモ奈何セン其實ハ之
ヲ失スルヲ由レ是觀レ之物價騰貴ノ平均說ヲ唱スルハ其非ナ
ルヲ愈明瞭ナル可キナリ

又上下共ニ事業ノ困難ニ際會スト雖モ其原因ハ那處ニ在
ル乎其障害ハ那處ニ止ル乎又如何ナル方策ヲ以テ之ヲ驅
逐ス可キ乎ト汲々乎トシテ精神ヲ凝ラシ致々焉トシテ腦
髓ヲ練リ以テ救濟スルノ意ナシ徒然歎々ニ付スルヲ主義
トスル者アリ説者云ク物價ノ騰貴ハ其障害甚大ナラサ
ルナリ何トナレハ則チ物價ハ日ニ月ニ騰貴スト雖モ生計
必需ノ品物ハ年々其需用ヲ増加スルニ非ラスヤ彼ノ租稅
表ヲ閱ミスルニ毎年需用品ノ殖ルニ由リ諸稅額ヲ増スモ
ノハ是レ其証ナリト然リト雖モ其需用ノ増加ハ他ニ來由
アリテ然ルナリ如何ニ物價騰貴ニ際スト雖トモ業ニ已ニ
非常ノ節儉ヲ行ヒ以上ハ口腹モ飢餓ニ忍ヒス四支モ寒
凍ニ堪ヘサルナリ節儉ハ則チ其他ノニ故ニ生計必需ノ品

物ハ年々人口ノ繁殖スルニ隨ヒ其消費モ亦増加セサルヲ
 得ス租稅表ノ増額ハ說者ノ所謂証跡トナスニ足ラサルナ
 リ物價騰貴ノ爲メニ習慣ノ需用ハ之ヲ減スル能ハス終ニ
 窮迫必死ヲ致スハ髣髴トシテ其レ眼中ニ在リ「チアチミス
 ト」萬有人間ニ在テ利ヒサルモノ無レノ如キ却テ之カ爲メ
 ニ利益ヲ得ルアリト見認スル者ノ所見トハ全ク反對ニ出
 テ霄壤ノ差異アリトス蓋シ說者ノ如キ租稅ノ増額ヲ見テ
 直チニ物價騰貴ハ其障害甚ク少ナシト速了スルモノハ其
 一ヲ知テ其ニ辨セサルモノナリ吾儕ハ此說ヲ聞クハ敢
 テ願ハサルナリ
 又大市街ノ代議員ニシテ或ハ自得シテ左ノ說ヲ爲ス者アリ
 リ當市街ノ現狀ハ俄カニ貿易貨幣証券等ノ繁昌セシテ以

テ物價ノ騰貴ヲ招キタルナリ是レ即チ營業者及ヒ豪商等
 カ射利ノ目的ニ出ルナリ如此人爲チ以テスルモノハ必ラ
 ス永續セス自然ニ消滅スルヲ近キニ在リト此說ヤ物價騰
 貴ノ原由根基ヲ認認スルモ亦甚哉抑騰貴ノ實體タルヤ或
 ハ需用供給ノ平衡ヲ失シ或ハ諸種ノ作用ニ由テ生スルモ
 ノナリ故ニ其平衡ヲ復スルカ又ハ其作用ノ止ムニ非ラチ
 レハ決シテ低落ノ期アルヲ見ス市相場ノ時々昇降シテ更
 ニ一定セサルカ如キモノト大同カラサル所アルナリ近
 々二三年間ニ於テ各般事業ノ景況俄カニ一變シ著ク其
 衰頽ヲ現出セシテ維府ノ如ク甚太シキモノハ他ニ覓ムル
 モ復ク之アラサルナリ
 又諸邦各都ニ於テ萬國博覽會ノ開場アルニ際シテ諸般ノ

物價ヲ騰貴シ或ハ家賃ヲ昇昂シ以テ大利ヲ攫取セシト欲
 スルノ目的モ終ニ之ヲ達スル能ハス而シテ博覽會モ亦既
 ニ閉場セシ後ナニ及フト雖モ商賈及ヒ家主ハ同時ニ於テ
 騰貴セシ品物並ニ家賃ヲ大ニ低落セシノ例アリヤ否之ヲ
 ルナリ故ニ政府ニ於テ其原由根柢ヲ剷除スルニ着眼セ
 備ヘタリ故ニ如何ナル防禦ノ策ヲ施スト雖モ決シテ其効ヲ
 スンハ他ニ如何ナル防禦ノ策ヲ施スト雖モ決シテ其効ヲ
 奏スルヲ能ハサルナリ

第二 物價一般騰貴ノ原由

抑價値ハ品物貿易ノ間ニ於テ金貨ヲ容ル、ニ由テ生ズル
 モノナリ一物ニ交換スル他物ノ位格ナリ即チ價値ノ買賣
 ハ品物ニ對稱スル金貨ヲ以テ其品物ト交換スル品物貿易

ノ一種類ナリ蓋シ價値トハ品物ニ代用シテ授受スル金貨
 ノ數ヲ稱スルモノナリ世間尙ホ品物ヲ以テ品物ニ交換シ
 金貨ヲ以テ之ニ代用スルヲ知ラサルノ時ニ在テハ其用度
 ノ大小強弱善惡醜美即チ品物ノ價値ヲ比較シ以テ貿易ノ
 標準トナセリ既ニ金貨ヲ代用スルニ及テヤ之ト異ニシテ
 物價ヲ定立スルニ專ラ金貨ヲ以テ標準トナスニ至レリ
 是レ衣食物ノ如キ人間必用ノ充分ニ具價ヲ備有セシ諸品
 ナ宜シク對稱シテ金貨ノ多寡ヲ定ムルナリ豈復タ至便ノ
 方ナラスヤ而シテ金貨ハ人間ノ生活ヲ直チニ足スモノニ
 非ラズ品物ヲ貿易スルノ器具ナリ故ニ金貨ノ價格ハ則チ
 貿易用便ノ大小長短ニ由ラサルヲ得サルナリ是ヲ以テ販
 賣者ハ同等ノ價値ヲ以テ同等ノ眞價ヲ有スル他物ヲ購求

シ得ルハ會ニ充分ニ眞價ヲ有スル品物ヲ以テ小額ノ金貨ト交換スル而已ナラス一般へ貨幣ナリト皆知セラレ以テ流通スルハ毫モ眞價ナキ印刷片紙ト雖モ尙ホ之ヲ以テ品物ト交換スルニ至レリ是レ即チ無眞價ノ紙幣ト雖モ政府ノ允可ヲ以テ何時ヲ問ハス何處ヲ論セズ有眞價ノ品物ト交換シテ又他物ニ交換スルニ當リ確然トシテ損失ナシト自信スルカ故ニ金貨ト齊シク融通シテ賣買ノ媒介トナスナリ然リト雖モ既ニ信用ヲ失ヒ疑懼ヲ懷クニ及ンテハ紙幣ノ爲メニ生スル損失ヲ賣品ニ算入スルカ又ハ品物ヲ蓄藏シテ發賣ヲ中止スルニ至ル是故ニ通用貨幣ハ眞價ヲ備有シ一般ノ媒介ニ用便ナル能力ヲ保持スルヲ以テ緊要トナシ、ルヲ得サルナリ夫レ此ノ如シ物價ハ通貨ハ眞

價如何ニ係ルヤ大ナリ而シテ通貨ハ會ニ貿易ノ媒介トナル而已ナラス經濟ノ開進セル社會ニ於テハ特ニ用便ニテ寸暇モ缺ク可ラサルカ故ニ貿易ニ供ス可キ通貨ノ匱乏スルハ則チ物價ニ著シク其影響ヲ生スヘシ蓋シ通貨ノ全國品物ノ貿易ニ使用スルノ額ニ餘裕アルハ之ヲ品物ニ交換スルニ於テモ亦多額ヲ要スルノ姿トナリ其過量ナル間ハ決シテ物價ノ低落スルヲ嘗テ之アラサルナリ然レモ又國內融通ニ不足ヲ告ルノ時モ亦物價ハ騰貴スルヲ見ル可シ是レ品物ヲ製造スルコト少ナフシテ之ヲ消費スルノ適度ニ應セス即チ供給需用ノ平均ヲ失スルニ因レハナリ經濟學者ノ國內通貨ノ用度ヲ論スルヤ運用ニ過量ナルハ則チ過量ノ部分ハ或ハ驕奢物ニ化シ或ハ國內餘贏ノ資

本トナツテ外國ニ輸送ス而シテ國內運用ニ匱乏スルハ
 則チ之ヲ用ルニ節制ヲ加ヘ且ツ又其國ニ於テ要用ノ額ハ
 必ラス他國ヨリ輸送シ來ルカ故ニ各國共ニ現時要用ノ額
 ハ自ラ運用セサルモノ無シト云ヘリ夫レ然リ國內要用ノ
 額ヨリ過量コシテ其通貨ノ他國ニ於ケルモ尙ホ本國ニ同
 等ノ價格ヲ有スルハ則チ前論ノ如クナル可シ唯々有異
 價ノ通貨ニシテ一般ニ流通シ又國外ニ出ツ可キナリ
 一般ニ向テ眞價ヲ保テサルノ通貨ヲ運用スルハ現在金
 額ハ莫大ナルカ如キモ貿易要用ニ當テハ毫モ餘裕アルヲ
 見サルナリ是レ則チ通貨ノ眞價ヲ有セサルカ爲メニ物價
 ノ騰貴ヲ招クニ由ルノ事又通貨ノ不足ナルハ於テ他國
 ヨリ輸送スルハ其他國ノ所有者カ其有餘チ出シテ自己ニ

利益アリト見認スルノ時ニ非ラザレハ決シテ此事アル無
 キナリ且又此時ニ於テ他國ノ通貨ヲ自國ニ輸入セシメ
 欲スルハ天工ノ富有ヲ要スル而已ナラス又政府ノ現狀
 整然カラサルヲ得サルナリ然リト雖モ他國ノ通貨ヲ仰キ
 其輸入ヲ望ムカ如キハ甚ク少ナフニ稀ニ有ル所ナリ經
 濟書ニ國內ノ用度ハ國內ノ通貨ヲ以テ自ラ支辨スルモノ
 ナリト一章ハ輿論ニ於テ其妥當ヲ得タルカ如シ
 物價ハ販賣者ト購求人トノ間ニ於テ双方ノ情實ニ由リ或
 ハ特ニ貴ク或ハ特ニ廉ナリ凡ソ人許多ノ金貨ヲ有シ自在
 ニ使用スルヲ得ルハ隨テ金貨ヲ貴重スルノ意自然ニ輕
 ク適意ノ品物ヲ見レハ則チ其不廉ニ厭ハス販賣者ノ慾望
 ニ應ジ易キモノナリ是故ニ國民一般ニ非ラス其一部分ナ

トト雖凡容易ニ金貨ヲ使用シ得ルノ時ニ當テハ販賣者等
 本物價ヲ騰貴セシムルノ念慮ヲ起シ終ニ一般ノ騰貴ニ推
 遷スルニ至リ他ノ一部分ニ其影響ヲ及ホシ來リ唯々金貨
 フ手裡ニ歸セシテ熱望シ以テ金貨ノ融通ハ愈々衰へ物價
 ノ騰貴ハ愈々盛ナル可シ又金貨ヲ其本職即チ貿易ノ器具ニ
 供スルコト小額ニシテ頻リニ他用ニ充テ以テ租税、利子、小作
 年貢、投機商法等ニ多額ヲ要スルキハ則チ物價騰貴ノ原由
 トナル可シ之ヲ要スルニ金貨ニ關スルノ騰貴ハ實ニ金貨
 ノ眞價ト及ヒ其運用高トノミニ在ラス又現在國民ノ金貨
 ナ使用スルノ如何ト且ツ貿易ノ他ニ幾許ヲ充用スルヤニ
 因ル現ニ或ル國ニ於テハ金貨ヲ濫用セシカ故ニ大ニ物價
 ノ騰貴ヲ提出シタリキ然レ凡經濟學者ハ金貨ヲ使用スル

ノ如何ハ物價騰貴ニ殆ント痛痒ナキモノ、如ク説明セリ
 是レ果シテ實地ニ運庭ナキ乎
 品物ノ眞價即チ固有ノ價值ハ之ト貿易ス可キ品物ノ眞價
 ニ由テ定ムルモノナリ故ニ販賣者ハ其製造ニ於テ消費セ
 シ金額ヲ得サルハ決シテ發賣セサルナリ購求人モ亦其
 製造費ヨリ小額ノ價值ヲ以テ購求セント欲スルキハ必ラ
 ス之ヲ得ル能ハス今ヤ一物ヲ求メントスルニハ其固有ノ
 價值ヲ辨償セサルヲ得サルハ理ノ當サニ然ル可キ所ナリ
 然リト雖ニ製造ノ費額ト其品物適用ノ大小トハ間々相稱
 ハス或ハ甚太シキ差違ヲ生スルコトアリ是レ即チ品物ノ價
 値其眞價ニ相應セサルコト屢之アル所以ナリ而シテ製造費
 ハ品物ヲ製出スルニ消費セシ金額ニシテ職工ノ賃錢賣品

ノ原價總テ此事業ニ使用セシ資本金並ニ利子ヲ合算併稱
 スルモノナリ因テ製造物ノ價值ハ此費用ヲ基礎トシ又賣
 買場迄ノ運搬費及ヒ運送口錢取扱口錢ニ至ルマテ苟モ此
 品物ニ關スルノ諸費ハ毫モ遺ス所ナク盡ク之ヲ算入セザ
 ルヲ得サルナリ故ニ資品ノ騰貴、賃錢ノ昇昂、運搬費ノ増額、
 口錢ノ多量ナルキハ其價值モ隨テ昇騰スルノ理ナリ又製
 造物ニ於テ新タニ稅ヲ課セラル、カ或ハ從來ノ稅ヲ重課
 セラル、ニ當テハ又之ヲ需用者ニ配當セサルヲ得サルカ
 故ニ益騰貴スルノ佗ナキナリ
 物價騰貴ハ實ニ資本ノ作用ノミナラス方今流行ノ所有權
 ニ基クモノ又多シトス品物ヲ產出スルニ天地ノ化育ハ所
 有主ノ特權内ニ在ルヲ以テ其所有ノ地ニ產スルノ品物ヲ

販賣スルニ於テハ則チ所有權ニ由リ一種特別ノ利益ヲ得
 ント欲スルハ猶ホ資本主ノ金權ヲ以テ其利ヲ擅ニセント
 欲スルニ於ケルト一般曷ナル無シ故ニ所有權ノ益勢ヲ得
 ルトハ彼ノ造化力ニ在ル產物即チ衣食食物及建築材ノ騰貴
 スルハ必然ナリ而シテ經濟書ノ價值理論ニハ所有權ノ物
 價騰貴ニ干渉アルハ全ク之ヲ數ヘスト雖モ實地ニ就テ之
 ヲ觀レハ昭々乎トシ掩フ可ラサルモノアリ
 製造費ヲ以テ算定セル當然ノ價值ハ市場ニ於ケル臨時
 價值ニ變スルカ如キハ絶ヘテ無クシテ稀レニ有ル所ナリ
 但正價即チ當然ノ價值ハ市價即チ臨時ノ價值ニ對シテ之
 以下既ニ低落ス可ラサルノ際界トナル可シ蓋シ市價
 ハ購求人カ必ラス之ヲ購求セサルヲ得サルノ時機ニ於テ

ルカ或ハ品物ノ夥多ナルカ或ハ購求人ノ金融ニ自由ナル
 カ或ハ俄カニ人ノ輻集スルヲアルカ此等數者ノ作用ニ面
 リ忽チ騰貴スルモノナリ
 方今經濟學者ノ論スル所ヲ見ルニ需用増加スルキハ則チ
 供給必ラス之ニ從ハサルナシ而シテ產出品ノ増加スルヤ
 必ラス價值ノ減退ヲ招ク可シト然リト雖モ其供給ヲ増加
 セント欲シテ俄カニ產出ノ多量ヲシテ冀望スルモ製
 造家ニ於テハ製造ノ力ハ造化ノ力ニ及ハス人工ノ運セサ
 ルモノアルカ或ハ諸般ノ障礙ヲ生スルカ或ハ資本ノ不足
 スルカ如キ憂ヒアリ而シテ有地者ニ於テハ作物ノ多寡ハ
 純ハラ地質ノ善惡ニ在リ且ツ天ノ與フル凶年ニ向テハ復
 タ如何トモスル能ハサルナリ何ソ供給増加ノ冀望ヲ全フ

スルヲ得ンヤ市價ノ減退スルハ唯ニ產物ノ増加ニ因ラス
 而シテ市場ニ輸送スルノ夥多ナルト產出者並ニ販賣者ノ
 意向ニ干スルナリ產物ノ増加ヲ見テ直チニ價值ニ影響ヲ
 生ス可シト速了スルカ如キハ則チ確論ト稱スルヲ得サル
 ナリ是故ニ產出ハ多量ナリト雖モ或ハ市場ニ輸送スルノ
 困難ナルカ或ハ運搬費ノ許多ヲ要スルカ或ハ產出者並ニ
 販賣者等カ品物ヲ蓄積シテ現今發賣セサルヲ以テ利益ヲ
 リト見認スル所ハ却テ市場ニ品物ノ匱乏ヲ告ケ市價ノ
 昇騰ヲ招クハ敢テ疑テ容レサル所ナリ經濟學者ノ論スル
 カ如ク世間一般ニ故障ナク進歩スルキハ則チ供給需用
 對稱モ猶ホ國內通貨ノ額ト運用ノ度トニ於ケルカ如ク常
 ニ平均スルハ普通ニ公則ナル可シト雖モ人間ノ私慾ハ公

平無私ノ經濟學ニ違ハス汲々乎トシテ射利ヲ競ヒ或ハ供給ヲシテ需用ニ不足セシム可キ奸策ヲ運ラズト數々之ヲルナリ如此產出者並ニ販賣者等ノ私慾ヲ逞フスルハ市場ノ景況ヲ窺ヒ以テ需用ノ急迫ヲ察スルノ時ニ於テ最モ甚太シトス其詳細ハ後文ニ説明ス可シ

市場價值ノ人爲ニ左右セラレ殊ニ所有主ノ特權ヲ擅ニスルヲ以テ品物供給ハ竟ニ獨賣權ノ姿トナレリ開明ノ進度ニ隨ヒ現在ノ經濟ニ感スル識力愈普及スルルハ則チ獨賣權ノ作用ハ愈益進ス可キナリ而シテ獨賣權ノ流行スルヤ市場眞成ノ自由ハ絶ヘテ消滅スヘシ獨賣權ハ復々物價ヲ昇騰スルノ一大原因ナリ

第三 價格ヲ變スル各物交互ノ作用

凡ソ物價ノ騰貴スルヤ左ニ開列スル各物交互ノ作用ニ在リ即チ國內金額ノ過不及、無眞價ノ通貨、金貨ノ本職ニ非ラサル運用ノ増加、製造費並ニ運搬費ノ巨額、課税ノ重荷、奸商ノ増殖、所有權及ヒ獨賣權ノ流行、供給需用ノ不平均等ナリ而シテ此數多ノ原因モ之ヲ各箇ニ分チ其時ヲ異ニスレハ騰貴モ亦輕少ナル可シト雖モ若シ一齊ニ相伴フカ如キハ其勢正チニ極點ニ達シ衆庶困難ノ慘狀觸目ニ堪ヘサルニ至矣且又施政ノ方向經濟ノ變遷ニ由リ大ニ騰貴ヲ提出スルヲアリト雖モ之ヲ待スルニ其原由ヲ探知シ而シテ之カ反對ニ出ルルハ其騰貴ヲ減殺スルモ亦難カラサル可シ例レ之貨錢ノ昇騰スルルハ則チ力役ニ代フルニ器械ヲ以テシ金額ノ過量ナルルハ則チ之ヲ外國ニ輸送シ或ハ之ヲ細工

使用スルカ如シ原因ノ只一ナルルハ其防禦ノ策ニ於テ
 豈復何ノ若シムコトアランヤ故ニ又製造費ニ於テハ増加
 大ト雖運搬費ニ於テハ減少スルヲ以テ遂ニ價格ニ感セ
 サルコトアリ又國內金額ノ増加スルアリト雖運搬製造貿易ノ
 隆盛ニテ之ヲ運用スルモ亦廣大ナルヲ以テ毫モ其影響
 ナ見サルナリ
 現在ノ騰貴ニ就キ其原由中只一箇ヲ舉ケ以テ今日騰貴ノ
 根基ナリトスルカ細キハ甚太シキ輕忽ノ判斷ト謂ハサル
 ナ得テ果シテ一箇ノ原由ニ止マルルハ決シテ憂フルニ足
 ラスト雖何奈何セシ諸種ノ原由一時ニ集ルチ吁
 第四 真正ニ非テ貨幣下落
 現今ノ物價騰貴ニ就キ皮相ノ意見ヲ以テ輕忽ノ説明ヲナ

ス者甚タ抄ナセトセス諸新聞紙ニ於テハ一ニ貨幣ノ下落
 ナリテ騰貴ノ根源トナシ而シテ貨幣ノ下落ハ輒近ノ亂出
 ニ在リトノ臆説ヲ掲載シ以テ廣ク江湖ニ告知セシカ故ニ
 到ル所トシテ此説ヲ傳唱セサルナリ又自由經濟家ハ現在
 ノ貨幣額ハ其要用高ト自然ニ平均ヲ得ヘシト口吻ニ演
 書冊ニ筆シ以テ之ヲ説明スルカ故ニ目下ノ騰貴ニ苦マシ
 ルノ富有者ハ或ハ此説ヲ信シテ安堵ノ思ヒヲナスモノア
 リ政府ニ於テモ亦恐ル可キ今日ノ騰貴ヲ防遏スル所ニ以テ
 緊要トセテ反テ之ヲ害アトスルカ如シ蓋シ現今ノ貨幣
 下落ハ果シテ前説ニ逕庭ナキカ將テ物價ノ騰貴ハ貨幣ノ
 作用ニ歸ス可キカノ一大問題ハ則チ實地ニ就テ論及スル
 以テ肝要トセサルヲ得ルナリ

先ツ漢國ニ就テ之ヲ説明セン貨幣下落ノ原因ハ二十五年
 來紙幣ヲ運用スルノ宜シキヲ得サリシト又現在紙幣ノ他
 ニ運用ス可キノ通貨ナキトニ由ル然レモ其最モ主トス可
 キハ國內ニ於テ正金貨ハ更ニ之ヲ見ス而シテ當時運用ノ
 紙幣ハ^{モト}額スク正金貨ニ交換シ得ルノ眞價ヲ全ク備有セキ
 ルニ在リトス
 然リ而シテ現今國內ニ於テ運用スル貨幣ノ額ハ決シテ要
 用ノ度ニ^{チヨウクワ}超過セサルナリ故ニ紙幣下落ハ其過額ニ由テ生
 スルコト非ラサルナリ又物價騰貴ノ原因ニ非ラサルナリ請
 フ試ミヨ其實例ヲ舉ゲテ之ヲ論ゼン
 千八百六十年ノ末ニハ銀行券^{バンクノチヤン}四億七千四百八十六万壹千
 五百六十二グルデンノ眞價ハ三億五千三百拾四万六千百

八十七グルデンニシテ其差異一億二千百七十一万五千三
 百七十五グルデンナリ即チ三割〇八強ノ下落トス
 千八百七十三年ノ末ニハ紙幣^{スエーデン}三億五千三百拾六万グルデ
 ント銀行券三億四千四百〇三万三千二百七十グルデント
 合計六億九千七百拾九万三千二百七十グルデンノ眞價ハ
 六億二千七百四拾七万三千九百五十グルデンニシテ其差
 異六千九百七十一万九千三百二十グルデンナリ即チ一割
 弱ノ下落トス
 千八百六十年ニ於テハ輸出入高五億四千九百七十二万千
 二百〇二グルデンニシテ千八百七十一年ニ於テハ十億〇
 〇八百三十三万三千二百〇九グルデンナリ之ヲ前年ニ比
 算スレハ殆ソト一倍ノ高額ニ至レリ又以テ貨幣運用ノ漸

夫ニ増加セシテ知ルニ是レハ
 千八百七十一年ニ於テ國內ノ麥、小麥、番薯、糖菜、苧麻、葡萄、乳
 肉ハ一倍ノ騰貴ニシテ六億二千九百八十万グルデンノ價
 額ヲ要スルニ及ベリ又製造物ノ價額ハ千八百六十年ニ於
 テ一億六千七百四拾二万〇百四拾六グルデンナリシモ千
 八百七十二一年ニ於テハ二億七千九百三十壹万二千三百三
 十五グルデンニ至レリ又澳獨兩國共ニ鉄鑛石炭ハ當時三
 倍ノ騰貴ナリ又千八百六十年ニ於テ投機商法、証券買賣ニ
 運用セシモノ之ヲ小額ニ積算スルモ一億グルデンニ降ラ
 シルベシ又同年ノ稅納金ハ二億七千七百七十六万五千九
 百三十四グルデンナリ而シテ千八百七十二一年ニ於テハ五
 億グルデンノ巨額ニ達シタリ(千八百七十三年十月末維府

ニ於テ貨幣相場ノ一大變革ニ當リテ既ニ貨幣ハ地ヲ掃フ
 テ盡キタリト云フモ尙ホ維府及ヒ地方ノ銀行ノ現存金ヲ
 算スルニ五千五百〇三万八千二百三十九グルデンナリシ
 カ是レ皆ナ現在必要ノ貨幣ニシテ裕餘ノ準備ニ非ラサル
 ナリ)以上列擧スル所ノ條件ヲ細カニ歴察シ來テハ國內運
 用ニ多量ノ貨幣ヲ要スルハ確然トシテ毫モ疑ヲ容ル可ラ
 サルナリ

現在貨幣下落ノ原因ハ國內運用ニ於テ過量ナルニ非ラス。
 獨權銀行ノ証券ニ處スルノ宜シキヲ得サルニ在リトス澳
 國ニ於テ最後二回ノ和陸ヲ締盟セシ時ニ當テヤ政府ノ支
 出ハ實ニ二倍ヲ増加シタリ(紛牙利)因テ俄カニ重稅ヲ課シ
 以テ不足ヲ補ハシコトヲ試ミタリト雖モ尙ホ財政ハ整理セ

シテ見ル能ハサルナリ而シテ獨權銀行ノ爲メニ議會ヲ開キ証券銀行ヲ別離ス可キヲ主張スル翁牙利ノ議題ニ對シテ尙ホ國內金額ノ平均ヲ定メ以テ獨權銀行ヲ全クスルハ如何ノ討議スルノ間ハ紙幣運用ノ切迫ハ其消跡ヲ望ムト雖モ決シテ得ヘカラサルナリ而シテ其切迫ハ現在騰貴ノ一原由ニシテ絶ヘス之カ聲援ヲナシ以テ永日ニ涉ラシムルナリ又茲ニ的實ノ經驗アリ千八百五十五年ヨリ千八百五十七年マテ頻リニ貨幣ノ價格ヲ恢復シ千八百五十八年ニ至テハ全ク本位ニ達シタリ又千八百六十七年ニ於テハ再ヒ紙幣ノ信用ヲ失ヒ更ニ價格ヲ低落セリ而シテ物價ハ漸次ニ騰貴シ毫モ變動セサルナリ由是觀レ之現在騰貴ノ原因ハ貨幣下落ノ他ニ在ルコト恰モ鏡裡ニ浮フカ如シ



又獨乙ニ於テモ實地ニ就テ觀察スル所ハ零ホ澳國ト一般唯小差アルノヲ而シテ世人ハ近來二年間ニ於テ佛國ヨリ輸入セシ正金貨五十億フランクニ無算ノ見解ヲ下シ國內金額ノ過量ナルニ及ヒタルヲ以テ現在ノ騰貴ヲ來シ且ツ治ク萬事ニ波及セリト意思スルモノ妙ナカラスト雖モ是レ其妥當ヲ得タリトナス可ラサルナリ夫レ十年來騰貴ノ表面ニ於テ巨細ニ注目スル所ハ則チ運用貨幣ノ過量ナルト殊ニ佛貨ノ輸入トニ原由セサルハ智者ヲ俟スベテ判然タル可シ五十億ノ金額ハ多ハ則チ多ナリト雖モ全國一般ノ運用ニ於テ其影響ヲ生シ其感動ヲ起スニ及ハナリキ而シテ獨乙從來ノ銀貨本位ヲ金貨ニ改革スルニ當リテ國內ノ銀貨ヲ政府ニ集收シ以テ新貨ヲ鑄造ス可キ黃金ヲ購

派セシニ由リ却テ貨幣ノ不足ヲ告ルニ至レリ殊ニ南獨即
 一晩近甚太^ク騰貴ヲ致セルノ地方ニ於テハ非常ノ^ク欲乏
 ナ見タリ蓋^シ物價騰貴ノ^{ラシク}瀕^ハ千八百七十一年ニ在ラス
 シテ遠ク其前ニ在矣
 南獨ノ貨幣ハ北獨ニ北獨ノ貨幣ハ南獨ニ相ヒ互ニ交通シ
 以テ賣買取引ヲナセシト雖^ニ南北ノ物價ハ則チ著ルシキ
 差異ヲ生セリ至獨均稅締盟國^{（稅ヲ平均セシメ各ニカ爲）}
 於テハ現在貨額一般ニ同等ナリト雖^ニ千八百六十六年ニ
 至ルマテハ北獨即チ^カ一^レレ^ル貨ノ國ニ在テハ南獨即チ^ク
 ル^デン^ノ貨ノ國ニ比算スレハ國內ノ活計ニ貨額ノ多量ヲ要
 シタルハ皆十人ノ知ル所ナリ於是乎世人ハ^フ魯^シ西^ニ搬^シ運^ス
 活計ニ要スル^ルター^レレ^ル（一）我^ニ分^ニ當^ルハ^凡ト同數ノ^クル^デン

一^カ三^分ニ^當ル^凡ソ[）]以テ南獨ノ活計ニ足レリト評^レタリ
 キ然ル^ニ今ヤ全ク反對ノ點ニ出テタリ是レ北獨ニ於テ物
 價ノ下落セシニ非ラス千八百六十七年^{（以降）}南獨ニ於テ漸
 次ニ物價ノ騰貴甚太シク竟ニ以前北獨^{（ノ）}ノ差異ヨリ高點
 ニ及ヒタレハナリ然リ而シテ南獨ニ於テハ千八百六十七
 年以降運用ノ貨幣^{（ハイ）}エル^ン。パー^{（）}デン。ウル^{（）}テム^{（）}メル^{（）}グ。ヘ
 ツセ^{（）}等ノ紙幣三千百五十萬^{（）}ル^{（）}デ^{（）}ン^{（）}ヲ增加セシト雖^ニ是
 又南獨ニ限^{（）}ル^{（）}ニ非^{（）}ラ^{（）}サル^{（）}ナリ若シ假^{（）}リ^{（）}ニ南獨ニ限^{（）}レ
 ル^{（）}モノト^{（）}看^{（）}過^{（）}ス^{（）}ル^{（）}モ其紙幣ヲ以テ騰貴ヲ致ス可キノ増額
 トナ^{（）}ス^{（）}テ得^{（）}サル^{（）}ナリ
 輒近十年來ノ物價騰貴ハ貨幣額ト製造及ヒ貿易高トノ不
 對稱ニ在リトス唯ニ過額ノ貨幣ヲ運用セシニ歸スル^{（）}テ得

カルナリ今其証跡を記載せん千八百六十年より千八百七
 十年マテ於テ獨乙國ニ運用スル貨幣ノ増額ハ五億タ
 レル(内壹億八千萬ターレルハ紙幣)ヨリ六億七千五百萬タ
 ーレル(内三億五千四百七十三萬〇四百ターレルハ紙幣又
 其内一億六千二百九十二萬〇三百四十二ターレルハ正金
 貨ト直チニ交換スルヲ得サルノ公私銀行証券ナリ)マテニ
 ヲテ在來全額ノ三分一ニ過キサルナリ而シテ諸種ノ產物
 及ヒ製造品ハ恰モ一倍ヲ増加セリ例之鑛山ニ於テハ千八
 百六十年ニ產出セシ量目ハ三億七千六百〇五萬八千四百
 七十八トエントナルコトヲ其價額ハ四千六百六十九萬四千二
 百五十一ターレルナリシカ千八百六十九年ニハ七億八千
 六百七十九萬九千二百二十七トエントナルコトヲ七千九

百二十二萬九千四百四十六ターレルナリ又蔗糖ノ製造ハ千
 八百六十年ニハ二千九百三十五萬四千〇三十一トエント
 ナルナリシカ千八百七十年ニハ五千六百六十九萬壹千七百
 三十一トエントナルナリ又^{プロヒセン}普魯閃ヨリ徵収スル稅額ハ一
 億三千〇六十一萬五千二百五十五ターレルノ半額ナリシ
 カ千八百六十九年ニハ壹億八千九百六十二萬〇三百九十
 ニターレルニ及ヘリ是故ニ近來多額ノ貨幣ハ貿易器具ノ
 要用ニ不平均ノ増加ナリト云カ如キハ無算ノ妄說タルヲ
 知ル可キナリ況ンヤ一般運用ニ過量ナリトスルニ於テチ
 ヤ
 佛國ヨリ輸入セシ五十億フランツノ金額ニ就キ再ヒ之ヲ
 細説セシニ其既ニ發出スルノ時ニ至ルト雖モ國內ノ運用

ニ感動ヲ起スノ勢威ハ業已ニ隱滅シタリト謂フヘン何ト
 ナレハ則チ近來二年間ニ於テ同額ノ金貨ヲ獨澳兩國ノ投
 機及ヒ賭博商會ノ所爲ニ以テ維也納白蠟ノ兩府ヨリ石吐
 以ニヘ運走セシメタル損耗金ノ宗本ニシテ彼等カ運用ノ
 犧牲ニ化シタリト謂フモ亦可ナリ蓋シ佛貨ノ國內ニ運轉
 スルト否トニ關セズ如此投機者等カ容易神速ニ巨萬ノ貨
 幣ヲ損失セシハ則チ諸般ノ物價及ヒ家賃ニ於テ其影響ヲ
 生シタルハ實ニ少々ナラサルナリ就中投機相場所ノ設ケ
 アル市街ノ如キハ特ニ著ルシトス且ツ夫レ獨乙物價ノ騰
 貴ハ獨佛交戰ノ前已ニ其兆アリ而シテ漸次ニ昇騰スルモ
 決シテ低落セサルナリ佛貨ノ輸入スルハ獨乙人ニ於テハ
 未タ夢ニメモ見サルノ時ト雖モ亦此ノ如ク究竟騰貴ノ原

由ハ貨幣ノ作用ノミニ在ラス又他ニ存スル所アルヲ知ル
 可

諸説紛々殆ント枚擧ニ追アラス今茲ニ其一説ヲ掲ケン方
 今各國一般ニ製造費ハ大ニ減退セシニ拘ハラズ物價ハ日
 ニ月ニ騰貴セリ是レ則チ二十年來巨額ノ貴金ヲ發出シ以
 テ世間ニ充滿シ爲メニ眞價ヲ低落セシニ在リトナスモノ
 アリ然リト雖モ此説ノ如キハ方今ノ世態ヲ証明スルニ足
 レリトスルヲ得サルナリ各國一般ノ物價騰貴ハ亞米利加
 亞西亞澳大利亞ノ諸洲ヨリ歐羅巴ニ巨額ノ貴金ヲ輸入セ
 シニ由ルカ或ハ其他ニ原因アルカハ此ニ於テ未タ判決ス
 ルニ至ラズト雖モ大凡ソ貴金ノ眞價ヲ低落スルハ則チ現
 在額ニ干渉セス而シテ掘採ノ費途ヲ減少スルト又需用ノ

減少スルニ由ル假令製造費ハ減退シテ貴金ハ巨額ナリト
 雖也各國市場於テ益貴金ノ欣望ヲ増スノ間ハ物價ノ騰貴
 ナリ以テ貴金ノ低落ニ歸スルヲ得サルナリ千八百五十年以
 降諸洲ヨリ歐羅巴ニ輸入セシ平均一ケ年ニ貴金二億五
 千萬グルデン白銀五千萬グルデンノ巨額ナリト雖也其眞
 價ハ倫敦萬國市場ニ於テ僅カニ二百分一ノ高低ニ出テ
 ルヲナシ又同年來墨西哥及ヒ比路ニ於テ金銀ノ鑛山ヲ發
 見シ世人皆テ貴金ノ低落ヲ唱ヘサルモノナシト雖也是レ
 亦其旨ノ的中セシヲ見サルナリ而シテ第十六紀ニ當テハ
 少シク眞價ヲ失ヒシト雖也是レ貿易器具ニ要用ノ金額ヲ
 増加セシニ非ラズ而シテ各國交際ノ親密ヲ得タルヨリ爲
 換券並ニ銀行券ノ隆盛ニ及ヒタルヲ以テ自然貴金ノ需用

チ減少セシニ由ル抑又輓近歐羅巴ニ於テ年々正金額ヲ在
 來全額ノ凡ソ百分ノ三ヲ増加セリトナサンカ其増加ノ部
 分ハ驕奢物ニ製造ヲ以テ消滅シ將タ世間ノ商法ハ益々進歩
 スルカ故ニ眞價ヲ低落セシムルニ足ラサルナリ然リ而シ
 テ加里福尼澳大利亞及ヒ西伯利亞ニ於テ貴金坑ヲ發見セシ
 ハ歐羅巴ニ對シテ最モ緊要ナリト謂ハサルヲ得ス若シ之
 ノ微シハ製造並ニ商法モ現今ノ進歩ヲ致ス可能ハス又鉄
 道ヲ敷ク能ハス又二十年來ノ戰爭モナス能ハサリシナラ
 シ蓋シ歐羅巴中ニ運用スル金銀貨額ノ不足セシ証跡ハ其
 他ニ尙ホ凡ソ三十億グルデンノ紙幣ヲ發行セルヲ以テ明
 カナリ

第五 現在騰貴ノ仮原因タル貨錢ノ具騰スルカ爲メ

増加セシ製造費

貨幣過額ニ生シ貨幣下落ト同時ニ於テ澳獨ノ兩國ニ侵入セル一般ノ物價騰貴ハ其最タル日用品ニ於テ製造費ノ増加セシニ由ル而シテ人力ニ屬スル製造ニ於テ許多ノ費額ヲ要スルニ至レハ又諸般ノ製造ニ於ケル費額ヲ増加スルノ根源ナリトノ説ヲ主張スルモノ甚ク多シト雖凡果シテ是邪非邪次ヲ追フテ之ヲ論セシ

賃錢ハ製造費中其一ナリ而シテ製造ノ種類ヲ異ニスルトハ賃錢モ亦其多寡ヲ同フセス是故ニ賃錢ノ昇騰セシ時ニ於テモ食料物ノ價値ニ感スルハ最モ微少ナリトス

食料物ノ作出ニ於テハ人力ヲ要スルノ意外ニ瑣少ナリ或ハ至少之ニ藉ヲナルモノアリ即チ卵、乳、飼鳥、家畜是ナリ而

シテ農事ニ於テハ人力ヲ要スルノ最モ許多ナルカ如シト雖也又天地ノ化育其多キニ居リ人力ノ與カル所口實ニ少ナシト謂ハセラルヲ得ス農者ノ事業ハ唯ニ之ヲ保護シ之ヲ培養シ以テ造化ノ目的ヲ達セシムルニ在リトス大小麥ノ如キ最モ生活ニ緊要ニシテ最モ莫大ニ作出スルモノナリ而シテ人力ノ要用ハ最モ鮮少ナリ又農事ニハ備役ニ匱乏スルカ或ハ賃錢ノ昇騰スルルハ則チ器械ヲ用ヒテ人力ヲ省キ以テ費途ヲ減スルヲ得ヘキナリ

フルベッキ氏ノ計算ニ據レハ澳國ニ於テ年々非類チ交作スルニ「エハ」ノ田圃ニ三十三人ノ力役ヲ要ス而シテ德拉奴思ノ「ヨハ」ニ蕃薯二百五十チエシトチルノ収獲アリト云ヘリ果シテ然ラハ人夫ノ賃錢ハ一人ニ當リ一グムヂンナル

カ故ニ蕃薯一チエントチルニ付七タロイツル半ノ賃錢ナ
 リ若シ人夫ノ賃錢ハ一倍ノ昇騰ヲ致スカ如キモ蕃薯一チ
 エントチルノ價值ハ七クロイツル半ノ一倍ヲ増加セサル
 ナ以テ至當トス何トナレハ則チ田圃作業ノ費額ハ日雇人
 夫ノ賃錢ヲ以テ算定ス可ラス不斷作業ニ使役スル婢僕ノ
 給料ニ由ラサルヲ得ス而シテ其給料ハ臨時ニ使役スル人
 夫ノ賃錢ニ比算スレハ常ニ小額ナレハナリ然リ而シテ輓
 近六年來蕃薯一袋ノ價值ハ一倍ノ騰貴ヲ致シ凡ソ一グル
 デソノ差異ヲ生セリト雖ヒ婢僕ノ給料ハ緩カニ其騰貴ノ
 十分一ヲ増加スルニ過キサルナリ
 凡ソ製造ノ費額ハ唯ニ賃錢ノ一ヲ以テ定ムルモノニ非ラ
 サルナリ農事ニ於テモ亦然リ食料物ノ作出ハ動不動ノ費

本ヲ要ス然レモ不動資本ノ如キハ殊ニ地味ノ多少ヲ損ス
 ルノミ然ラハ則チ農事ノ主宰タル造化ノ作用ニ由リテ以
 テ食料物價值ノ昇降ヲトスルキハ果シテ其的實ヲ得タリ
 トセンカ否ナ其價值ハ凶歲ニハ必ラスモ騰貴シ豐年ニ
 ハ必ラスモ下落スルハ未ダ之アルヲ聞カス尙ホ其他ニ
 於テ價值ヲ算定スルモノアルヤ明カナリ
 輓近食料物騰貴ノ理由トナス可キハ則チ家屋建築費並ニ
 家賃ノ昇騰セシニ在ルハ之ヲ實地ニ徴シテ毫モ狐疑スル
 所ナシ近來田舎宿驛ノ如キハ建築費總額ニ就キ賃錢ノ具
 騰ハ凡ソ三分ノ一ナリ又千八百七十三年各大都會ノ建築
 費中賃錢ノ昇騰ハ通計一倍ナリ又建築用材モ前時ノ價值
 ニ一倍ノ差異ヲ生シ因テ新築ノ家賃ハ一倍ヲ増加シ又古

屋ト雖凡亦之ニ準シテ家賃ヲ昇騰セリ如レ此彼レヨリ此レ
 〇巨タリ此レヨリ彼レニ連ナリ以テ波及シテ來リ終ニ食料
 物ヲ騰貴スルコト至レルナリ
 白靈府ニ於テ多クハ十年來ニ建築セシ家屋ノ統計表ニ據
 レハ千八百六十年ニハ家數一萬一千六百二十軒ニテ住
 室ハ十一萬三千〇四十八戸ナリシカ千八百七十二年ニハ
 家數一萬四千二百八十九軒ニシテ住室ハ十七萬三千戸ニ
 及ヘリ即チ三千二百〇九軒ノ家數ヲ増加セルナリ
 然リ而シテ建築費ノ昇騰ヨリ算出スレハ新屋ニハ百分ノ
 七十三又古屋ニハ百分ノ二十七ノ家賃ヲ増加シテ正當ナ
 ル可シ然リト雖凡新古ノ別ナク總テ一倍ヲ加ヘタリ而シ
 テ此昇騰大小ノ市街ニ波及シ終ニ建築ノ僅少ナル田舎ノ

宿驛ト雖凡家賃ノ昇騰ヲ見ルコト至レリ

獨澳ノ兩國ニ於テ十年來ノ賃錢昇騰ハ百分ノ三十ナリ故
 ニ世人ハ其割合ヲ以テ諸種品物ノ價值ヲ算定スルノ目的
 トナセリ而シテ製造費中賃錢外ノモノハ常ニ同等ニシテ
 更テニ變化ナシト偏見併認スルヲ以テ其實變化シテ騰貴
 スルトハ則チ再ヒ之ヲ賃錢ニ歸シテ立算セサルヲ得サル
 可シ

賃錢外トハ則チ動不動ノ資本並ニ半製品ノ元價ヲ云フナ
 リ今ヤ世人ノ皆ナリ知スルカ如ク製造費中ノ綱領タル器
 械ハ常ニ廉價ナル而已ナラス工人ノ改良ニ由リ著ルシク
 便利ヲ得タリ又鐵道開設ノ隆盛ニシテ運搬ニ便利ヲ得タ
 ルカ爲ニ半製品即チ製造費品ノ運搬ニ費用ヲ減シ以テ其

價値が低落セリ貸銀昇騰ノ如キハ是ヲ以テ補ツニ足レ
 ナリ製造家ノ力役者由賃銀ノ増加ヲ請求セシテ販スク承
 諾シ敢テ反撃セサルノ原由ハ則チ此ニ在ルヲ知ル可シ
 製造場ニ於テ費額ノ増加スルハ則チ其製造ヲ擴充スルニ
 在リトス近來一般ニ切要ナル品物ヲ製造スルノ場所ハ數
 箇合併シテ廣大ノ製造場トナシ大ニ製造高ヲ増加セリ例
 之均稅締盟國ニ於テ千八百六十年ニハ二百四十七ヶ所ニ
 テ菜糖二千九百三十五万四千〇三十一チエントチルヲ製
 シ一ヶ所平均拾壹万八千八百四十二チエントチルニ當ル
 千八百七十年ニハ二百九十六ヶ所ニテ五千百九十九万一
 千七百三十一チエントチルヲ製シ一ヶ所平均拾四方二千
 二百チエントチルナリ即チ二千二百三十三万七千七百チ

エントチルノ増加ニシテ而シテ製造場ハ唯ニ十九ヲ増加
 セルノミ又製鉄ハ千八百六十四年ニハ千七百四十四箇ニ
 シテ三千七百三十八万九千七百八十三チエントチルナリ
 シカ千八百六十九年ニハ電數ハ千四百〇三箇ニ減少セリ
 ト雖ル五千七百六十三万七千三百六十チエントチルヲ製
 シ殆ント前年ニ一倍ヲ増加シタリ
 加此漸次ニ製造ノ開大ヲ致シ器械ヲ發明シテ力役ニ代用
 シ以テ賃銀ヲ省キ製造費ヲ減スルヲ大ニ進歩セリ又澳國
 ニ於テハ千八百五十二年ニハ千三百四十三箇ノ蒸氣器ニ
 シテ五万二千九百四十三馬力ヲ供用セシカ千八百六十四
 年ニハ蒸氣器三千七百九十一箇ニシテ馬力五万九千三百
 八十二ニ至リ其後復之ニ倍セリ製造器械ノ改良モ亦大ナ

近來一般要用ノ製造物ニシテ價值ノ昇騰ハ鮮少ナリト雖
凡品等ノ低落ハ莫大ナリ而シテ其原因ハ製造費ニ非ラス
又貨錢ニ非ラス需用ノ急迫ヲ見テ突然臨時ニ過大ノ製造
ヲナスニ在リトス

然リ而シテ現今貨錢ノ昇騰セシハ則チ貨錢外ノ費途ヲ減
少セシテ以テ相償フニ足レリ究竟物價ノ騰貴ハ製造費ノ
増加ニ歸スルヲ得ステ其原因ハ則チ他ニ存セリ

第六 現在ノ供給ト増加セシ需用ノ對稱

抑物價騰貴ノ責任ハ果シテ貨幣ノ下落ト製造費ノ増加ト
ニ在ルカ勝テ運搬ノ不便ト課税ノ重荷トニ由ルカ或ハ供
給需用ノ對稱ニ歸ス可キカ否々是等ハ決シテ其原因トナ

ス可ラサルナリ

運搬費ニ就テ云ハ、輕捷至便ノ鐵道ハ建築管理運搬費
等莫大ノ費額ヲ要スルカ爲ニ獨權ヲ有スルニ拘ハラズ貨
錢ハ一般ニ廉下ナルヲ以テ諸般ノ運送物ハ悉ク鐵道ニ托
スルニ至リ大ニ其費額ヲ減殺スルヲ得タリ今其鐵道ノ漸
次ニ隆盛ナル實例ヲ掲ケン澳國ニ於テ建築セシ鐵道ハ千
八百六十一年ニハ七百二十一マイル八六ナリシカ千八百
七十三年ニハ二千四百一十一マイル五九ナリ又均稅締盟國
ニ於ケル鐵道ノ里程ハ千八百六十四年ニハ千七百七十三
マイル四八ナリシカ千八百七十一年ニハ二千五百二十九
マイルニ至レリ
製造物課税ニ就テ云ハ、近來重稅ノ令屢出ルヲ以テ製造

ノ動念表へ且困難ヲ來タシ物價ニ感ス可キノ理ナリト雖
 是實際ニ於テハ却テ進歩シ盛大ナ極ムルカ故ニ是亦騰貴
 ナ致セルモノト謂フ可ラサルナリ
 日用品ニ重税ヲ課セラレ爲メニ貧者ハ益窮迫ヲ來タセリ
 ト云フ者アリト雖是レ即チ食物及ヒ家賃ノ騰貴ソノ感
 動ノ本筋ナリ食物家賃ノ騰貴スルヤ從テ復タ食料税、家賃
 税ノ不規則ニ重荷セラル、ニ至レリ獨澳兩國ニ於テ近年
 ノ如ク食料税、家賃税、住室税等ノ重課ハ未タ嘗テ聞カサレ
 所ナリ政府收入ノ著ルシク重嵩セルノ根源ハ則チ此ニ在
 リト謂フヘシ然レモ住室税、家賃税ノ如キハ若干年前ノ建
 築ニ係ルモノハ課税ヲ蠲免ス可シトノ例典アリ因テ課税
 マスカ、者亦勘シトセス殊ニ澳國ニ於テハ最モ多ク殆ソ

ト四十分一ヲ減少セリ而モ免税ヲ蒙ルルヲ以テ家賃モ
 亦減スルナラント思考スルハ則チ實際ニ逕庭ナキヲ得ス
 借家者ヨリ見ルハ之ヲ官府ニ収メズシテ家主ニ納ムル
 ノ差異アリト謂フ可キノ
 又免税ノ餘裕ハ建築ノ資本ニ割キ以テ借家ノ建築ヲ増加
 シテ供給ノ需用ニ多キヲ致シ從テ經濟論ノ主眼タル需用
 供給ノ對稱ヨリ物價ノ變動ヲ提起スルノ理由ト一般家賃
 ノ下落ヲ來タス可シトノ見解ヲ下スカ如キハ唯ニ理論ニ
 偏シテ實地ニ闡キモノト謂フヘシ今ヤ免税ノ舉アルニ拘
 ハラズ家賃ノ下落ハ都鄙一般之アルヲ見ス家主ノ依然ト
 ナ高値ノ家賃ヲ取リ政府ニ向テハ建築ノ費途ヲ高頓ニ
 云ヒ立テ以テ免税ヲ請ヒシコトヲスヤ

衣類及ヒ家政器具等ノ製造物ニ於テハ一般ニ課税ノ感覺
 實ニ稀^キ有^ニナリ(關稅ヲ除ク)然リト雖モ關稅ノ如キハ皆ニ外
 國品ヲ購置スルノミナラス類似ノ內國品ニ於テモ亦其影
 響^キヲ生スルヲ大ナリ殊ニ近年ハ類似同品ニ止ラス遂ニ諸
 種ノ品物ニ波及セリ故ニ關稅ニ根據スルノ騰貴ハ益勢^キ熾
 ノ熾^クナルノミ

物價ノ昇降ハ需用供給ノ對稱ニ在リトハ經濟學者ノ說明
 スル所ナリ近來十年間ニ於テ著ル^ク需用ノ進歩セ^ハハ
 毫モ疑ヲ容ル可ラス獨澳一般現ニ入口ヲ増殖^シ特ニ大都
 會ノ住民ハ愈^々其多キヲ加ヘタリ然リ而シテ世上ノ論者ハ
 此ニ着眼セス近來一二社會ノ相場取引ヲ容易^ク神速^クニ爲ス
 ヨリ需用ヲ増加シ以テ供給ノ不足ヲ招キシナリト説明ス

ル者アリト雖モ需用ノ進歩^シハ即チ消費ノ進歩ナリ何ソ一
 ニ社會ノ作爲^ヲニ關セ^シヤ蓋シ需用ノ増加ヲ以テ物價ノ騰
 貴ヲ來^スセリト爲^シ得^ルノ時ハ則チ供給ノ需用ト同一ニ
 進歩セ^ス又仮令^ヒ進歩スルモ極メテ鮮少^ニシテ大ニ平均^ナク
 失スルノ時ニ限ル可シ然リト雖モ現今ノ如キ製造ハ日ニ
 月ニ隆盛^ヲ致シ供給ノ不足^ヲ見^ス需用供給ハ同時ニ進歩
 セリト謂^ハハサルヲ得^ルナリ
 供給ノ需用ニ平均^シ或ハ之ニ超過^スルハ殆^クト之アル無
 シト云^ヘル者間々少ナカラスト雖モ是亦何等ノ見解歎何
 ソ能^ク之ヲ計算上ニ舉^ルヲ得^シヤ抑^テ方今一般ニ製造ノ増
 加セ^シテ以テ品物ニ不足^ナキハ皆^テ人ノ熟知^スル所ナリ
 人口^ニ增加^シ需用大ニ進歩^セシ大都會ノ如キモ其市

場ニ於テハ到ル所トシテ物品ノ蓄積スルヲ目撃セザルハ
 ナレ是レ方今ノ世態ハ品物ニ細瑣ノ需用ヲ増加スルヤ
 然時日ヲ移サス其品物ヲ過多ニ作出スレハナリ殊ニ食料
 品ハ種々ノ好工ヲ以テ擬造スルモノ多シトス一般要用ノ
 製造物ニ就テハ業己ニ前章ニ於テ増加ノ實跡ヲ列舉セリ
 而シテ其増加タル均稅締盟國ニテハ凡ソ六分ニシテ漢國
 ノミニ就テ云ハ、凡八分ナリ而シテ人口繁茂ニ以テ消費
 増加ノ度ニ比較スルモ遙カニ超越シタリキ又諸種ノ穀物
 モ食用家蓄ト等シク各國ノ貿易物トナリ因テ其作出モ亦
 大ニ増加シ舉テ計フ可ラサルニ至リ當時穀物ノ不作ト家
 蓄ノ流行病トニ據リ麩ト肉トノ不足ヲ生セリト云フカ如
 キハ固ヨリ取ルニ足ラサル無稽ノ巷説ナリ唯市街ニ於テ

蓄積滿溢セリト稱スルヲ得サルノニ敢テ不足ヲ告グルニ
 非サルナリ又家屋建築ニ於テモ絕エテ空室アルヲ見ス常
 ニ其要用ニ後レタリ夫レ此ノ如シ消費増加スレハ製造モ
 亦隨テ増加シ需用供給ハ必ラス平均ヲ保テ確然トシテ動
 カサルナリト論斷スト雖也之ヲ實地ニ徴シ果シテ其的中
 ヲ得タリトスルカ
 マルツスノ所謂土地ヲ列テ増加スル人口ノ需用ト小數
 ナリテ増加スル製造ノ供給トハ自然ニ平均ヲ得ヘント云
 ヒシニ異ナラス貧困窮迫纒カニ露命ヲ保續シ得ルヲ以テ
 平均ヲ得タリトセハ家屋供給ノ如キモ亦何ノ時カ其需用
 ニ平均セサルアランヤ白蠶並ニ蠶也納ニ於テ人口ノ増殖
 セハ實ニ莫大ナリト雖也不充分ナカテ各其住居ヲ得

然レハ數千ノ人頭一房ニ集合シ以テ雜居群住スルニ過
 キス遂ニ官立家屋ヲ要スルニ至レリ是亦住居ハ則チ住居
 ナリト謂ハサルヲ得スト雖モ豈復チ此ヲ以テ眞成ノ平均
 ナ失セストナス可ケンヤ今其實例ヲ掲ケレハ白蠶ニ於テ
 ハ千八百六十年ヨリ六十一年中ハ十一万三千〇四十八ノ
 住室ニレテ一家平均四十五、一八ニ當リシニ千八百七十二
 年ニハ家數三千二百〇九ヲ加ヘ而シテ住室總計十七万三
 千〇〇三ニレテ一家平均五十五、六八ニ當リ前年ニ比ス
 レハ住室ノ増加ハ實ニ五万九千九百五十五ナリ然リ而シ
 テ悉皆新築ニ建築セシカ固ヨリ合棟併屋ナリト雖モ如此
 僅々年間ニ於テ如此大數ノ住室ヲ建築スルハ豈復チ容易
 ナ之ヲ得ンヤ是レ即チ古家ヲ割キ以テ住室ヲ分チシモノ

ナリ故ニ住室ハ狹隘ニシテ人員ハ許多ヲ容サルヲ得ス其
 証跡ハ平均一家ニ住居セル人員ハ四十五、一八ヨリ五十五
 五五ニ止レルヲ以テ明カナリトス許多ノ人員一房ニ合住
 スルトハ則チ健康ニ障害ヲナシ諸種ノ病症ヲ發シ終ニ流
 行病ノ根本ヲ醸出シ以テ大ニ國民ノ不幸ヲ提起スルノ間
 ヤ之アリトス又家屋建築ニ高丈ノ限リアルヲ以テ窄住穴
 居ヲ増加スルカ如キハ世人ノ異口同音其不利ヲ喋々スル
 所ナリ
 住室需用ノ進歩セシト現ニ供給スル住室トノ比例ヲ取ル
 所ハ則チ上文ノ如ク然リ故ニ貧者ハ特ニ弊室破屋ニ住居
 スルモ亦業已ニ充滿シテ空室虛屋アルコト常ニ供給ノ
 不足スルヲ以テ家賃ハ非常ノ騰貴ヲ致セシナリ

現在ノ物價騰貴ハ以上論述スルカ如ク^{ボウダツ}冒頭ニ於テ列舉セ
ル數多原由ノ他ニ^{ヒンフク}潛伏スル眞成ノ原由アリ能ク之ヲ區別
セシムルヲ要ス

第七 物價騰貴ノ眞正原基

物價騰貴ノ眞正原基ハ現在日用品ノ供給ニ於テ所有主ノ
隨意擅用スルノ權理ト施政上ヨリ特ニ勢力ヲ得ル市場
獨賣權即チ是ナリ
所有權ヲ備具スルヨリ賣買ニモ亦所有主ノ意見ヲ擅ニシ
以テ價格ヲ昇騰スルノ手段ニ思想ヲ施ラヌヤ深且大ナリ
而シテ其意想ハ則チ純ハテ大利ヲ占メント欲スルノ他ナ
シ又製造家ハ物價騰貴ノ色アルチ一見スルヤ俄カニ製造
ヲ増加シ以テ高價ニ賣却セシムルヲ企圖スルハ人間ノ通情^{ツウジヤウ}

クシテハカ
クシテハカ

ナリ是故ニ製造ヲ擴大ニシ供給ヲ増加スルキハ需用モ亦
之ト平均セシムルヲ冀望セリ而シテ其意ノ如クナラス市價
ノ下落スルノ景狀ヲ現出スルキハ復タ再ヒ品物ヲ我手ニ
集収シ以テ製造家或ハ販賣者ニ於テ市場ノ價格ヲ昇騰ス
可キノ方策ヲ施ラシ其時ヲ得テ忽然發賣セリ蓋シ其方策
ニ就テノ問題ハ製造家並ニ販賣者等カ市場現在ノ需用ト
供給ノ大小ヲ一般ニ觀察シ得ルノ識力何ノ点ニ至ルカ又
需用ニ對スル供給ノ市場價格ヲ減退セズ尙ホ之ヲ昇騰セ
シムルノ手段ヲ施ラシ得ルノ智計何ノ度ニ達スルカニ在
リトス其需用供給ノ對稱ヲ一市場又ハ二三ノ市場ニ於テ
確然トシテ見認スルキハ則チ購求者ノ約定モ無キ需用ノ
莫大ニシテ市場賣品ヲ日用ニ費スヤ愈大ナルヲ見テ販賣

者ハ約定ヲ以テ價格ヲ立テ而シテ供給ハ仮令需用ニ餘リ
 アルモ販スル物價ヲ昇騰シ以テ專賣スルヲ得ヘキナリ
 今食料市場ニ就キ見察スルニ販賣者ハ獨賣權ヲ施行スル
 ノ地步ヲ占メテト謂フ可シ每歲產物ヲ近傍市場ニ輸送
 スルノ耕地所有者ハ常ニ其市場ヲ目撃シテ其實況ヲ熟知
 スルハ製造家カ各處ニ散在スル許多ノ市場ヲ看破スルヨ
 リ遙カニ確然ナル可シ故ニ耕地所有者ハ市場ニ現出スル
 需用ノ強弱ヲ見テ將サニ市場ニ輸送セントスル供給ノ多
 寡ヲ計リ以テ親地ニ産出セシメ品物ノ價格ヲシテ低落セシ
 メザルノ加減ヲ調理シ又價格昇騰ノ狀勢アリト雖も尙ホ
 益之ヲ增長セシメントシテ冀望シ忽チ夥多ノ品物ヲ作出シ
 現在ノ需用ニ超過スルカ如キハ害テ之アル無シ耕地所有者

者ハ製造家ト同シク非常ノ利益ヲ攫取セント欲シテ投機
 射利ノ如キ決シテ之ヲ試ミサルナリ又食料品作出ノ多寡
 ハ製造家ノ製造品ニ於ケルカ如ク作出者ノ意思ニ任スル
 ヲ得サルナリ而シテ作出者モ亦市場ニ於テ販賣高ノ他ニ
 莫大ノ産出ヲ企圖セサル可シ如何トナレハ確乎不拔ノ利
 潤ヲ得ルコトハ供給ノ過大ナルヲ斷定スレハナリ然リ而シ
 テ現在ノ需用ト供給ノ平衡ヲ得テ其過不及ヲ見スト雖も
 漸次ニ市價ノ昇騰スルヤ期シテ俟ツ可シ是レ即チ食料ノ
 需用ハ自然ニ進捗スルノ理由アリ從來ノ供給ヲ以テ目下
 ノ需用ヲ補フニ足ラス竟ニ需用者ニ於テ高値ヲ願ヒルノ
 進アラサルニ至ルヲ以テナリ市場價格ヲ低落セズ尙ホ提
 起センカ爲メニ商賈ノ意思同轍ニ出テ又耕地所有者ノ市

場實況ヲ同一ニ思考スルヨリ販賣方ニ於テ眞心ニ競争
 却テ價格ノ適度ヲ得ヘシト云フカ如キハ空談虚説ト謂ハ
 サルヲ得サルナリ今ヤ食糧市場ノ價格ヲ尙ホ鞏固ニ保持
 セント欲シ數多ノ販賣者等ハ變々市場ニ出入シ而シ物價
 ノ定立ハ常ニ購求者ニ由ラスシテ販賣者ニ由リ購求者ハ
 已ムヲ得ス其値ヒヲ以テ求メサルヲ得サルナリ又豪商大
 買ハ自己ヲ守護スルヲ殊ニ厚キヲ以テ或ハ自己ノ都合ヲ
 計リ市場ニ品物ヲ出サス或ハ時價ノ豫期セシ價格ヲ欠ク
 キハ持忍シ得ルマテ持忍シ決シテ發賣セサルナリ凡ソ商
 買ハ其主本タル獨賣權ニ障礙ヲ與ヘサルノ智慮ハ充分ニ
 備有セリト謂フヘシ又運鈍ナル農民ト雖田利ヲ取ルノ道
 ニ於テハ皆ナ伶俐ナラサルナリ

一般ニ販賣者ハ射利ヲ以テ主眼トナセリ購求者ノ夥多ニ
 シテ高値ニ販賣シ得ルヲ以テ習慣トナセル市場ニ於テハ
 需用ノ多寡ニ拘ハラヌ又製造ノ元費ヲ算セス密カニ一致
 和合シテ價格ヲ約定シ以テ購求者ハ既ニ此上ノ高値ヲ出
 ス能ハサルノ点ニ昇騰セシムルハ現ニ目撃スル所ナリ殊
 ニ食料ノ如キハ保生ニ不可缺ノ日用品ナリ販賣者ハ亦之
 ニ乘シテ其價格昇騰ハ極端極末ニ達セサレハ決シテ止マ
 ラサルナリ然リト雖田之ヲ防遏スルノ方法ハ千思万考ス
 ルモ尙ホ之ヲ得ル能ハサルナリ密ニ防遏ス可ラサル而已
 ナラス漸次ニ隆盛ナルノ色ナキニ非ラス究竟現今ノ市場
 組織ニ於テハ獨賣權ニ抗拒ス可キモノ一トシテ備ハルナ
 ナリタチ

現今市場ノ組織タルヤ食料市場ノ如キ一所ニ限定シテ他
 所ニ開設スルヲ許サス又食料販賣店ヲ他所ニ建築スルモ
 概テ皆ナ停止セラレタリ其意タルヤ販賣者カ一所ニ輻集
 スルルハ相互ニ眞心ヲ以テ販賣ヲ競ヒ價格ヲ低落シ而
 テ惡品ヲ鬻キテ健康ヲ害シ度量ヲ詐リテ眩惑ヲ事トスル
 カ如キ惡弊ハ自然ニ其跡ヲ絶チ且ツ大都會ニ在テハ特ニ
 購求者ハ其場所ト時限トヲ知リ大ニ便宜ヲ得ヘシトノ考
 核ニ外ナラサルヘシ
 健康ニ障礙アル品物ヲ嚴重緻密ニ監視スルノ緊要ニシテ
 且ツ利益アルハ論ヲ俟ス就中品物検査ノ充分届カサルノ
 市場ニ於テモ亦實驗ニ因リ特ニ其効ノ如何ハ毫モ間然ス
 可キ所ナシ不正ノ度量並ニ欺騙ノ所業ヲ制止スルハ固ヨ

リ警官ノ注意スル所ナリ公然タル市場ニ於テハ警察吏ヲ
 派出シ以テ巡視セサルハナシ又購求者自ラ之ヲ防止スル
 ヲ得ヘシ品物ヲ市場ニ購求スルニ當リ自ツカラ改メスシ
 テ欺カレタルハ則チ輕忽ノ罪ナリ此ヲ以テ警察吏ヲ煩ハ
 スハ敢テ實ス可キニ非ラサルナリ販賣者ヲシテ一所ニ集
 合ニ交互ニ競爭セシムルハ數多ノ販賣者等カ一時ニ輻集
 シテ需用ノ強弱ヲ一齊ニ目撃スルモ亦之ヲ忌憚セサルノ
 弊ニ限リ公益トナル可シ
 又大市街ニ於テハ市場長屋ヲ建築セリ此舉ヤ雨露ノ蔭蔽
 ナキ場所ニ開市セシヨリ寧ロ好喜ス可シ就中往來ヲ防
 セス又市街ヲ清潔ニシ衛生上殊ニ公益アリトス
 然リト雖モ其長屋ハ即チ種々ノ供給物ヲ聚集シ以テ販賣

スルノ場所ニシテ販賣者等ハ相互ニ一致シテ獨賣權ヲ施
 行スルコトハ最モ容易ナリトス而シテ食料品ヲモ多分ハ作
 出者直ニ販賣セズ必ラ大商買ノ手ニ歸ス是レ商買カ各
 自ノ區域ヲ定メ以テ場所料ヲ納ムルハ則チ作出者ノ品物
 ヲ買入スルノ便宜トナレハナリ故ニ作出者ハ品物賣却ノ
 爲メニ市場長屋ニ出ルナシト雖モ商買ハ則チ其買入品ヲ
 此ニ於テ發賣シ供給ニ當テハ作出者ノ代理スルヲ以テ需
 用供給ニ對シ敢テ差異ナキカ如シ乃チ供給高ハ減少セズ
 ト雖モ供給者ヲ減少シ作出者ノ市場ニ於テ競争販賣スル
 カ如キハ絶ヘテ無ク稀ニ之アルモ閉市ニ臨ミ二三ノ作
 出者カ賣餘ノ品物ヲ再ヒ返送スルノ不幸ニ會スルノ時ニ
 止マレリ而シテ商買ハ若シ今日之ヲ賣サレハ明日必ラス

之ヲ鬻キ嘗テ如レ此不幸アルヲ知ラズ又貯藏セシ品物ノ賣
 却意ノ如ク速カナラサレハ後回ノ買入モ亦速クニセズ且
 ツ其高ヲ減スルノ自由アリ終ニ競争ヲ以テ價格ヲ落スカ
 如キハ決シテ之アラサルナリ
 現今市場ノ組織ニ於テハ物價騰貴ノ度遠隔ノ産出者カ其
 所在ノ價格ニ運送費ヲ加算シ以テ之ヲ販賣シ尙ホ許多ノ
 利潤アルニ至ラサレハ商買異成ノ競争販賣ヲ見ル能ハサ
 ルナリ
 遠隔ノ地ヨリ鉄道ヲ以テ食料品ヲ市場ニ輸送スルモ莫大
 ニ販賣セサレハ亦相當ノ利潤ヲ得ル能ハス故ニ大作出家
 ニ非サレハ來ツテ販賣スルヲ得サルナリ因テ競争ハ大都
 會ノ食料市場ニノ、間々行ル、コトアル可シ通常ノ小市場

於テハ遠隔ノ作出者カ自ラ市場ニ發賣スルハ毫モ其利
 ナキヲ以テ必ラス之ヲ商買ニ任ス而シテ商買ハ則チ市場
 ノ實況ヲ洞察シテ賣買ニ熟習スルカ故ニ巧ニ廉價ヲ以
 テ買入スト雖用其發賣ニ當テハ市價ヨリ低落スルカ如キ
 ハ未タ之アラサルナリ
 大都會ノ市場ニ於テハ時トシテ品物非常ニ多ク商買ノ競
 争ヲ以テ物價ヲ低落スルノ儘之ナキニ非ラスト雖ハ決シ
 テ永續セサルナリ是レ一般産物ノ増殖セシム非ラズ價リ
 ニ遠隔ノ地方ヨリ輸送スレハナリ故ニ産出所近傍ハ却テ
 供給ニ不足ヲ生シ再ヒ都會市場ヨリ返送ヲ要スルニ至リ
 物價ノ騰貴ハ都會ニ勝ルノ虞之アルハ世人モ亦能ク知ル
 所ナリ而シテ都會ノ品物ヲ遠隔ノ地方ニ輸出スルトハ復

タ幾部分ヲ減殺シ以テ騰貴ヲ來タスヘシ之ヲ要スルニ獨
 賣權ハ愈々^{ハセリ}騰貴ハ愈々^{サカシ}至ルノミ何ソ^{ハク}撲滅^シヲ期ス
 可ケンヤ

澳獨兩國ニ於ケル食料市場ノ實況ハ一トシテ此ノ如クナ
 クサルナシ是レ即チ其來由ハ獨賣權ニ歸セサルヲ得ス遂
 ニ又一般所用品ノ騰貴ニ推遷^スタルハ毫モ疑ナ容レサル
 所ナリ
 獨賣權ノ流行スルヤ日尙ホ淺シトス現今市場成立ノ日モ
 亦深シトセス而シテ其市場ノ組織ハ政府ノ指揮スル所ニ
 シテ最も要用ナル兩食品即チ麩ト肉トノ價格ヲ定立スル
 カ如キハ常ニ政府ノ干涉ヲ脱スル能ハサルナリ
 此時ニ當リ澳獨共ニ度量並ニ通貨ノ改正アリ是亦物價ヲ

騰貴スルノ器具トナリ以テ獨賣權ノ聲援ヲモテセリ
 地方人民ノ都會ニ輻集スルハ則チ莫大ノ需用ヲ來ラスノ
 根本ナリ需用ノ進歩スルハ則チ供給ノ莫大ヲ要スルノ結
 果ナリ作出者並ニ商買ハ其需用ノ進歩ヲ見テ射利ノ目的
 ナリ進歩ス如シ此大都會ノ市場ニ於テ物價ノ騰貴スルヲ
 トシ面シテ地方ノ市場ニ漸次ニ浸潤スルハ復タ皆チ獨賣
 權ノ流行スル作用ニ根據セサルハナキナリ
 需用ニ供給ノ不足ス可キ奸策ヲ施シ而シテ其需用ノ急迫
 ナルヲ見レハ忽チ物價ヲ昇騰スルノ作出者並ニ商買等ハ
 現今ノ公然ナル市場ノ成立ヲ恃ミ以テ所有權ノ自由ヲ振
 ヒ獨賣權ノ勢力ヲ擅ニスルヲ得テ射利ノ目的ハ確然トシ
 テ變動セサルニ至レリ

一般需用ノ進歩セシ時ニ際シ世間金融ニ餘裕アリテ資本
 運轉ニ自由ナレハ製造場ヲ開設スルモ亦容易ニシテ續々
 製造場ヲ新設シ以テ頻ニ諸品ヲ製造シ獨リニ市場ニ輸
 入シ忽チ現在ノ需用ニ超過スルニ至ル是レ諸方ヨリ輸入
 スル品物ノ額ヲ確知スルヲ能ハサルニ由ルト雖モ業已ニ
 市場ノ實況ヲ察知シ得ルモ猶ホ供給ノ益増加スルハ何ソ
 ヤ是亦一旦着手ノ製造ヲ止メ器械ヲ休ルルハ則チ許多ノ
 損毛アレハナリ於是乎品物ヲ貯藏シ以テ再ヒ需用ノ進歩
 スルヲ觀ヒ而シテ最初ノ目算ヲ貫徹セント欲シ敢テ價格
 ヲ低落セス以テ暫ク持忍スト雖モ其保續ニ困難ナルニ
 及テ遂ニ商買ニ托シテ發賣スルニ至レリ又商買ハ其衰
 勢ニ乘シ之ヲ買入スルハ則チ廉値ヲ以テシテ而シテ之ヲ發

賣スルハ則チ高價ヲ以テスルカ如キ狡猾手段ヲ運ブ可
 シ然リト雖元是レ供給ノ過多ナルニ由リ商賈モ亦悉ク
 其利ヲ全フスル能ハス終ニ買入ヲ停止セサルヲ得サルナ
 リ此時ニ當テヤ製造家ハ已ニ最初ノ目算ヲ過リ不得止製
 造ヲ減殺シ器械ヲ休止シ以テ漸次ニ需用ト平行スルニ至
 リ又商賈ハ射利ノ機會ヲ得ルナリ是故ニ需用ニ對シテ供
 給ノ多キハ費消者ニ於テ廉價ノ品物ヲ購求スルノ便宜ハ
 毫モ之ナシト雖元商賈ニ於テハ大ニ其利益アルハ日々ニ
 經驗シテ確實ヲ得タル所ナリ然リ而シテ製造家ノ射利ニ
 汲々タルハ固ヨリ論ヲ俟ス故ニ商賈ノ爲メニ價格ヲ低落
 ナラシムルハ及テヤ力ヲ極メテ製造費ノ節減ニ注意シ其注
 意モ亦已ニ足ラス竟ニ鹿惡ノ品物ヲ製出スルニ至ル蓋シ

製造ヲ増加シ供給ノ過多ニシテ緩カニ價格ノ下落スルア
 リト雖元費消者ニ於テハ富ニ便宜ナキ而已ナラス却テ品
 等ヲ下ケ量目ヲ減スルヲ以テ其質騰貴ノ困難アルノミ
 製造頗ル熾シヨシテ商賈ノ奸策モ亦已ニ及ハサルカ或ハ
 一ノ原因アツテ市場ニ需用ノ進歩セサルカ又ハ減退スル
 ニ當リ尙ホ過多ノ品物ヲ製出スルハ則チ貿易一期(盛極
 シハ衰トナリ衰極テ盛トナル循環)ノ一期ニシテ此ニ云フ
 ハ即チ衰期ナリ以下(下)ニ生シ(下)ノ品物其價格ヲ失ス
 ルニ至リ一般ノ製造家ハ營業ヲ休止シ而シテ投機及ヒ賭
 博ヲ目的トスル製造家ノ如キハ(下)ノ品物其價格ヲ失ス
 シトセス因テ復タ(下)ノ品物ノ匱乏ヲ來タシ又自然ニ需用
 ノ進歩スルヲ以テ其供給ニ不足ヲ告ルハ期シテ俟ツ可シ

究竟貿易期ノ末ニ當テハ則チ物價ノ騰貴スルハ必然ナリ
 上文ニ於テ逐次陳述スルカ如ク製造費ヲ減退シ又貿易期
 ノ生スルニ拘ハラヌ一般必需ノ製造物ハ嘗テ價格ノ低落
 スルヲ聞カス或ハ呼ソテ低價トナスモ品質ノ麁惡ナルヲ
 以テ其實騰貴ニ異ナラサルナリ然リ而シテ獨澳兩國ノ法
 律ハ將來ノ進歩ヲ計ツテ閣大ノ事業ヲ興サシメ殊ニ製造
 商會ヲ結合シテ株券發行ヲ許可シ而シテ資本ノ自由ヲ與
 ヘ以テ人民ヲ誘掖勸奨スト雖也却テ物價騰貴ノ宗本トナ
 ルモ果シテ其功績ヲ棄セシテ知ラサルナリ
 家賃騰貴ノ所有權ノ作用ニ根據スルハ千八百七十二年十
 月七八ノ兩日愛治拿巴濟世會議ノ問題トナリ住居ノ困難
 ナ創設セシ時於テ詳論細説シテ毫毛漏ラス所ナシ千八

百七十三年萊破帶格ニ於テ刊行セル公會決議書ヲ一讀セ

ハ直チニ悟了スヘシ依テ左ニ之ヲ記ス
 大都會ハ四方庶民ノ輻集スルニ據リ而シテ終ニ今日ノ
 住居困難ヲ招キシカ否ナ從來久シク家屋ノ不足セシカ
 爲メカ否ナ是レ至ク住家ノ定規ナキニ在リ而モ其定規
 ナキハ所有權ノ自由ヲ擅用シ又其自由ヲ愛護スルノ正
 當ニ出サルヲ以テナリ
 家屋ハ需用ノ進退ニ隨ヒ供給ノ加減ヲナシ以テ製造ス
 ルノ品物ト同シカラス故ニ家屋ヲ建築スルヤ業已ニ強
 大ノ權力ヲ占有シ家賃ハ其定ムル所ニ因ラサルヲ得サ
 ルノ情實ナキニ非ラス是ヲ以テ建築ノ權力ハ即チ家賃
 騰貴セシムルノ根本ナリト謂フヘシ所有主ハ競争ノ

爲メニ攻撃セラレ不得已家賃ヲ低落スルカ如キノ憂ヒ
 ナキヲ以テ借家者ニ於テ毫モ其利スル所ナキ而已ナラ
 ス或ハ不快ノ指揮ヲ受ケ或ハ無限ナル家賃ノ高値ヲ命
 セラレ且又一所ニ永住スルヲ得ルヤ否ヤヲ確知スル能
 ハス加之不願ノ事故ヲ以テ損害ヲ蒙ルルヲ展之アルハ
 世人ノ皆ナ能ク知ル所ナリ
 白蠟ニ就テ下ヤタル觀察ヲ推シテ一般ニ及ボシ毫モ租額
 スル所ナク雖アツテ駭撃スルモノ未タ之アルヲ聞カスト
 雖凡猶ホ之ニ副説スルモ敢テ其害ナキハ即チ高値ノ家賃
 ナ納ムルノ借家者ハ新築租悪ノ家屋ニ住居シ且其家屋ハ
 外見ヲ主トシテ内部ニ撫ハス外ハ則チ石室ノ如キモ内ハ
 則チ木材ヲ用ヒ或ハ醜塗ノ土壁木造ノ欄干ヲ以テ住室ノ

經界ヲナシ外見ハ殆トト宮殿ニ擬ス可キモ内部ハ則チ牛
 馬ノ室ニ勝ラス常ニ隣室ノ住人ニ對シ相互ニ屏息シテ起
 居セサルヲ得サルナリ
 尙ホ茲ニ一説アリ所有權ヲ濫用スルハ則チ家屋所有者ノ
 非ヲ各般ノ所有者モ亦悉ク皆ナ然ラサルハナシ所
 有權ノ社會ニ不幸ヲ與フルヤ近來最モ甚太キニ至レリ
 因テ慷慨論者ノ如キハ經濟ノ自由ニ對シ障害物ヲ除去ス
 ルヲ主トナシ政府ヲシテ所有權ヲ視奪シ以テ一般ノ公益
 ナ與サシメントス而シテ予カ説ハ所有權ノ自由ヲシテ社
 會ノ障害トナラシメサル可ク政府ノ大權ヲ以テ之ヲ制限
 セシムルヲ冀望スルノ主意ナリト雖凡千八百六十八年白蠟
 府ノ「フワヘル」スヒールテルヤールススリフト「新聞」ハ痛ク

駁撃ヲ試ヨタリ然レモ予カ説ノ正鵠ヲ得タルハ之ヲ實地
 ニ徴シテ明矣人口ノ急速ニ繁殖セシヨリ家屋所有權ニ就
 テ已ニ之ヲ証明シ又各般ノ所有權ニ於テ社會ニ不幸ヲ起
 カル可キノ制限ハ業ニ已ニ其門戸ヲ開キシニアラスヤ
 前條ノ所説タルヤ現在施政ノ組織ハ尙ホ其弊アルヲ免レ
 ス由テ之ヲ改正ス可キヲ辨明シ又一般ノ難狀ヲ細説セシ
 モノナリト雖モ政府ノ經濟ニ於テ惟警察贏利ノ二途ヲ以
 テ主眼トナシ國民ノ精神及ヒ實物ニ幸福ヲ授クルハ官府
 ノ政畧ニ於テ當然ノ理由ニ非ラス是レ則チ國民漸次ノ智
 慮ニ任ス可トスルカ如キハ決シテ其難狀ヲ消滅セシム
 ルノ道アルナレ

第八 此原基ヲ防禁スルノ方法

現今物價騰貴ノ原由根基ハ既ニ前段ニ於テ縷々陳述セシ
 カ如ク獨賣權ノ供給ニ歸ス可キハ毫モ疑ヲ容ル所ニ非キ
 ルナリ即チ現今ノ價格ハ獨賣權ノ價格ナリ故ニ國內運轉
 ノ貨幣額ヲ減シ職工傭夫ノ賃錢ヲ下ケ製造ノ費途ヲ減シ
 食料稅及ヒ借家稅ヲ薄フ又都會ニ於テ四方ヨリ輻集ス
 ルノ人口ヲ制限シ以テ需用ノ一所ニ集合スルヲ防遏スル
 カ如キハ則チ現今ノ騰貴ヲ防禁スルニ足ラキルナリ是レ
 其原由根基ノ此ニ在ラスニテ彼ニ在レハナリ
 夫レ然リ現今ノ騰貴ハ貨幣ノ下落ニ非ラス製造費ノ増加
 ニ非ラス又供給需用ノ對稱ニ由テ以テ出ルニ非ラス而シ
 テ市場ノ組織ト法律ノ所爲トヲ以テ公衆ヲ傷害スルノ獨
 賣權ヲ生シ爲メニ物價ヲ昇騰スルノ原由ヲ起セリト悟了

大ルキハ則チ其組織ト其法律トヲ一變セサルヲ得サルハ
 勢ノ止ムヲ得サル所ナリ業已ニ之ヲ一變スルヤ物價ノ騰
 貴ハ速カニ退減スヘキナリ
 然リ而シテ其變革ニ於テハ敢テ所有主ノ自由ヲ深ク減殺
 以テ國法ノ許認スル所有權ヲ痛ク殘破スルヲ要セス唯
 ニ獨賣權ヲ扶助スルノ原由根基ヲ作爲スルニ至テ其所有
 權ノ餘威ヲ限制スルヲ以テ足レリトス
 食用品騰貴ノ原因ハ販賣者中ニ眞成ノ競争地ヲ掃フテ盡
 キタルト又市場チ一二ノ箇所ニ限定セシカ故ニ購求者ハ
 咸ク盡ク此ニ來集スルヲ以テ販賣者カ需用ノ現況ヲ容易
 ニ洞察スルヲ得テ擅ニ獨賣權ヲ旋テスニ在リトハ已ニ之
 ヲ説明セリ故ニ今日ノ食用品騰貴ハ難狀ヲ救治スルハ第

一着ニ眞成ノ販賣競争ヲ起サシメ且食用品市場ヲ處々ニ
 開設スルヲ許可スルニ在リトス而シテ處々ニ市場ヲ開設ス
 ルモ亦衛生上ニハ則チ衛生警察ノ在ルアリ之ヲ隠密ニ
 注意セシムルハ敢テ又健康ヲ害スルノ憂ヒ之アルナシ
 小市場長屋ヲ處々ニ建築セシムルノ方法モ尙ホ中央ニ存
 立セル大市場長屋ニ於テ莫大ノ品物ヲ購求者ニ向テ直接
 ニ賣出スルルハ未タ其効ヲ奏スルヲ得サルハ現ニ維府ニ
 於テ其跡ヲ見ル所ナリ但如此ハ販賣者ノ營業ヲシテ益容
 易ナラシムルノミ何ソ費消者ノ購求ニ於テ一モ利スル所
 アランヤ是故ニ購求者ニ向テ直接ニ販賣スルノ場所即チ
 各處ノ小市場長屋ニ於テ眞成ノ販賣競争ヲ起サシメサル
 可ラサルナリ既ニ中央大市場ニ於テハ唯ニ各處ノ小市場

一 販賣スル商賈ノ買入ノミヲナスコ至ラハ則チ販賣者並
 一 産出者カ各處市場ノ現況ヲ一齊ニ洞察スルヲ得サルカ
 故ニ又其一致和合^{イッテロカ}レテ約定ノ價格ヲ立テ以テ擅マニ獨賣
 權ヲ旋ラスヲ得サルナリ於是乎小市場ノ販賣者ハ大市場
 一 於テ買入セシ品物ヲ速カニ販賣シ盡サントシ冀望シ相
 互ニ競争セテ非常ノ利益ヲ計ラズ只尋常ノ利益ヲ見ルニ
 至ルヘシ果シテ如此費消者ヲ利スルノ基礎^{キソ}ヲ開クニ及テ
 一 又販賣者ハ益低價ヲ以テ賣出セサルヲ得^{モト}ル可シ且ツ
 夫レ或ハ物價ノ昇騰ヲ豫期^ヨセ或ハ需用ノ急迫^{キツク}ヲ見認シテ
 一時ニ過度ノ製造ヲ起ス^トアリト雖^モ亦其作用ニ由テ以
 一 物價非常ノ騰貴ヲ來スカ如キハ絶^タヘテ之アル無シ故ニ
 又買入相稱^カヒ品物ヲ蓄積^チスル間^クノ利子ヲ加算スル^{コト}ナ

一 唯其製造費額ヲ以テ其價格ヲ算定シ敢テ不當ノ高値ニ
 至ラサルナリ又之カ爲メニ市中ノ金利モ或ハ非常ニ昇リ
 一 或ハ非常ニ降ル^{コト}ナク正ニ其平均ヲ得ヘキナリ
 一 食品ノ低落ヲ冀望シ販賣ノ競争ヲ惹起^キセント欲スルモ
 一 固ヨリ一箇人ノ得テ能クスル所ニアラス若シ近來ノ職工
 一 傭夫ノ同職相結^ヒフカ如ク需用者一般ニ一致和合スル^ルハ
 一 則テ其功ヲ奏ス^ルヲ得ヘシト雖^モ然レモ未タ嘗テ之アル
 一 事聞カサルナリ然リ而シテ假リニ費消者カ一般ニ結合ス
 一 ルトモハ價格ハ稍低落スヘシト雖^モ亦品質ノ益^ニ鹿^ニ惡^ニ至
 一 ルヲ如何セシ但獨賣權ニ抗拒^スルノ手段ハ主トシテ窮乏^キ
 一 事忍^ビ不足^クテ凌^シキ以テ品物ノ購求ヲ節減スル^{コト}在^ルヘシ
 一 事雖^モ然レモ日用不可^ク缺^クノ食料品ニ於テハ其販賣者ヨリ

之ヲ見レハ恰モ職工傭夫ノ製造家ニ對シテ賃錢ノ爭論ヲ
 開ケルノ際ト一般異ナルナシ如何ニ節減儉約スルモ亦生
 活費用ノ品物ハ終ニ之ヲ購求セサルヲ得サルナリ
 一般所用ノ品物ハ概近莫大ニ製造ヲ増加セシテ以テ其價
 格ハ當ニ低落スヘキノ理ナルモ却テ品質ヲ鹿惡ニシテ價格
 ヲ昇騰セルハ何ソヤ是レ即チ其大製造會社ノ金券並ニ株
 券ヲ以テ成立シ其資本ノ自由ヲ得テ斯過大ノ製造ヲ起シ
 以テ獨賣權ノ勢威ヲ逞シフスルニ由レハナリ故ニ今一般
 所用品ヲ低落セシメント欲スルハ必ラス先ツ此會社ニ
 向テ充分ニ抗擊セサルヲ得サルナリ然レモ會社創立ノ際
 ニ於テ政府力之ニ金券或ハ株券ノ發行ヲ許可シ以テ之ヲ
 勸奨スルノ目的ハ製造ヲ増加シ競争ヲ提出シ以テ價格ヲ

低落セシムルニ在ルモ如何セン其目的ヲ遂ケ好結果ヲ現
 ハスモノハ此會社中ニ一モ之アル無キヲ却テ惡弊ヲ惹起
 シ障害ヲ生出シテ既ニ會社設立ノ初ニ於テ資本ノ權力ヲ
 振ヒ其微弱ナル者ヲ壓倒シテ盡ク自己ノ會社ニ誘引シ以
 テ獨賣權ヲ擅用シ隨意ニ價格ヲ定立スルモ之ヲ抑制スル
 ノ要ヲ除キ而シテ竟ニ費消者ノ財産ヲ攫奪シ盡スニ非
 レハ其止ムノ色ナキカ如シ
 然リ而シテ如此會社ノ成立ニ於テ漸次ニ工業ノ進歩及ヒ
 經濟ノ進歩ヲ期ス可クサルノミナラス又賭博商會ノ惡名
 ヲ免レサルニ至レリ其賭博ノ失敗スル片ハ則チ準備ノ資
 本モ亦咸ク烏有ニ歸シ本ニ墮顛倒スル者往々之ナキニ
 非サルナリ是故ニ過度ノ製造ニ由テ來ルノ障害ヲ防遏シ

又獨賣權ヲ抑壓シ而シテ經濟ノ進歩ヲ冀圖スルルハ則チ
 如此成立ノ會社ハ速カニ之ヲ廢停セスルハアテナルナリ
 又家賃ノ騰貴ハ一ニ都會ニ於テ四方ヨリ輻集セシ人口ノ
 増加ニ起因セリト雖モ其來集ヲ制シテ其増加ヲ殺スルハ
 亦容易ニ行ハル可キニ非ナルナリ慷慨論者ノ如キハ家屋
 所有者ノ權力ヲ褫奪シ以テ其社會ニ障害スルヲ嚴禁スヘ
 シト切論スル者アリト雖モ然レモ是レ國法認許ノ所有權
 ナリ撲滅スルナリ人民自由ヲ妨害スルナリ豈復タ苛酷ナラ
 スヤ是故ニ家賃ヲ低落セシムルノ方策ハ所有者ノ隨意ニ
 家賃ヲ定立スルヲ禁ヅ以テ社會ニ障害ヲ與ヘサル迄ニ其
 所有權ヲ限制スルノ外他ニ之ヲ求ムルノ道アラサルナリ
 然リ而シテ所有權ヲ限制シテ家賃ノ定立ヲ所有者ノ自由

ニ歸セサルルハ則チ又所有者ハ其建築ヲ鹿懸ニシ以テ健
 康ヲ傷害スルノ恐アラシカ然レモ衛生上ハ則チ衛生警察
 ナシテ嚴密ニ監視セシムルルハ亦以テ此弊ヲ制止スルヲ
 得ヘシ敢テ意トスルニ足ラサル也

明治十四年三月廿六日板權免許
同 年五月二日 出 板 定價金四十錢

翻譯人

廣島縣平民 松本五造

東京府神田區雜司町三十二番地野村文夫九寄留

出版人

長野縣平民 飯島靜謙

東京府京橋區弓町十五番地藤澤玄吉方寄留

發兌書林

芝神明前 和泉屋 市兵衛
横山町三丁目 辻岡屋文助
人形町通り 法木徳兵衛

賣

日本橋通一丁目 大倉孫兵衛
京橋銀座三丁目 十字屋 九島司

南傳馬町 穴山篤太郎

同日影町 十字屋梅吉

日本橋通二丁目 山城屋 佐兵衛

日本橋通三丁目 丸屋善七

神田雉子町 巖々堂

本郷 博文堂

銀座四丁目 大和屋 極之助

銀座二丁目 山中孝之助

本石町二丁目 梶屋喜兵衛

棚

所

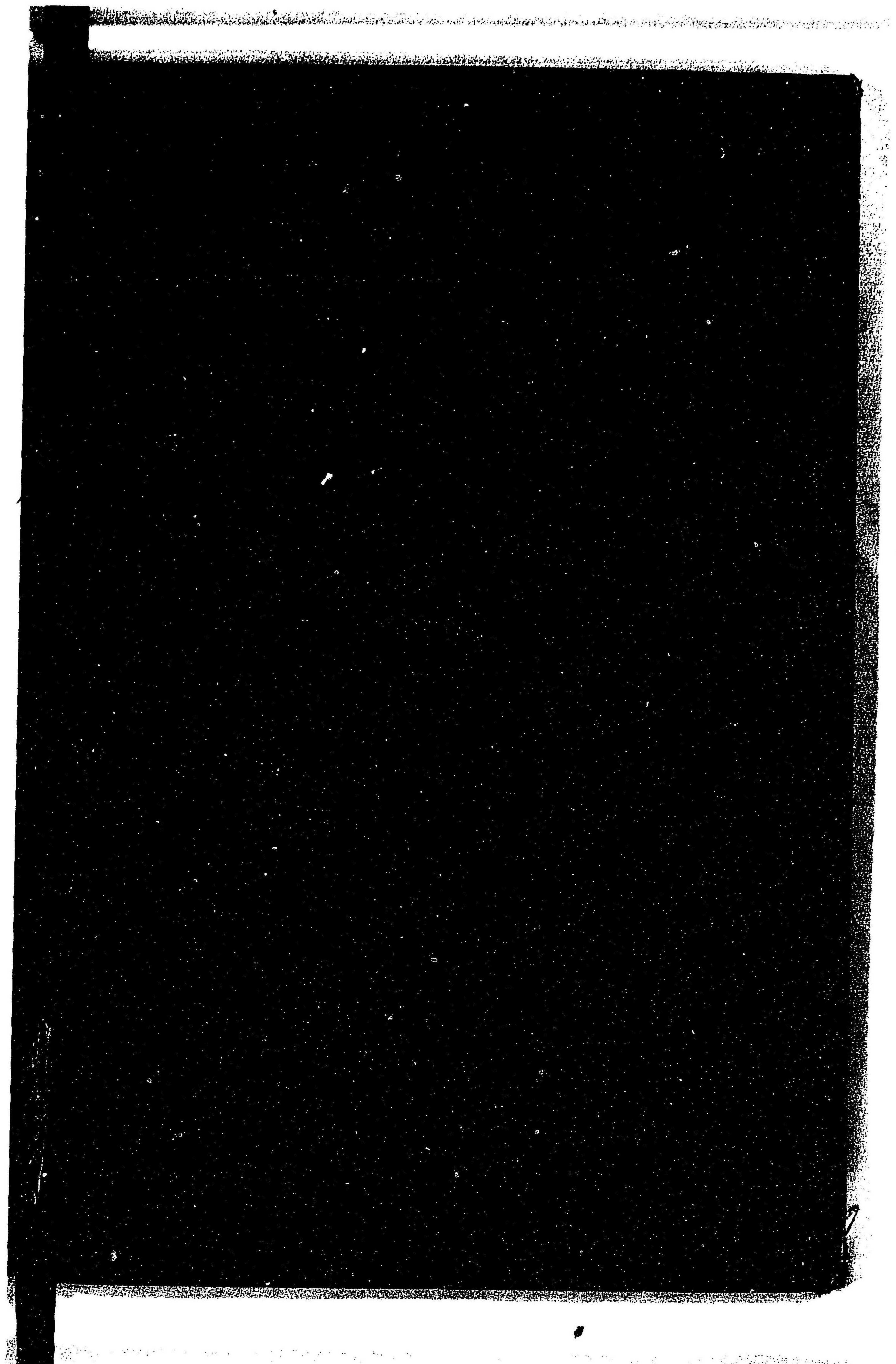
正誤

緒言三葉六行目波ノ下ニ理ノ一字ヲ脱ス
本文二十三葉七行目昭々乎トシノ下ニテヲ脱ス
七十葉六行目商賈ハ賈ノ誤

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 目, 波, 下, 理, 字, 脱, 昭, 々, 乎, ト, シ, ノ, 下, ニ, テ, 脱, 商, 賈, ハ, 賈, ノ, 誤）

切取

25
86





041249-000-5

25-86

論貴騰價物

波理 謨兒 / 著

M14.5

BDF-0459

